

2020 年度

学校法人 南山学園

事業計画書

NANZAN  
SCHOOL CORPORATION

## 目 次

はじめに ー 南山学園の基本方針と方向性 ー .....	1
各単位の事業計画 .....	10
1. 法人事務局 .....	10
2. 南山大学 .....	13
3. 南山高等学校・中学校 .....	17
(1) 男子部 .....	17
(2) 女子部 .....	22
4. 南山国際高等学校・中学校 .....	27
5. 聖霊高等学校・中学校 .....	31
6. 聖園女学院高等学校・中学校 .....	35
7. 南山大学附属小学校 .....	39
8. 聖園女学院附属聖園幼稚園 .....	43
9. 聖園女学院附属聖園マリア幼稚園 .....	46

※ 各単位の項目に記載の★印は、別途作成する「南山学園中期計画（2020年度～2024年度）」において、5年間の間に取り組むこととしている計画として記載されている事項のうち、2020年度において取り組むものであることを示します。

## はじめに — 南山学園の基本方針と方向性 —

南山学園は、キリスト教世界観に基づく教育を行い、人間の尊厳を尊重かつ推進する人材の育成を目指します。この建学の理念を実現するために、ハンス ユーゲン・マルクス前理事長が、2016年4月1日に以下に掲げる基本方針を発表いたしました。この基本方針を継承し、南山学園の全構成員が一丸となって努力していくことを約束いたします。

学校法人 南山学園

理事長 市瀬 英昭

---

2016年4月1日

職員のみなさん

学校法人 南山学園

理事長 ハンス ユーゲン・マルクス

## 理事長基本方針

### はじめに

教育の課題について、第二ヴァティカン公会議はカトリック教会の考えをこう解き明かしています。「青少年が身体的・道徳的・知的能力を調和のうちに発達させることができるよう援助しなければならない。また彼らが、絶えざる努力を持って自分の生活を正しく生き、勇気と忍耐をもって障害を克服しつつ、真の自由を身につけることによって、徐々により成熟した責任感を養うように援助しなければならない」（『キリスト教的教育に関する宣言』1）。また、「カトリック学校は、他の学校に劣らず、若者の教養と人間形成という目的を追求する」と確認した上で、「カトリック学校の特性は、自由と愛という福音の精神に満たされた雰囲気为学校共同体の中に作り出すことである」（同8）、と力説しています。

南山学園は、2016年4月の法人合併により、幼稚園から大学院までを擁することとなったカトリック系総合学園であり、キリスト教世界観に基づく教育を行い、人間の尊厳を尊重かつ推進する人材の育成を目指しています。キリスト教世界観の要は、一人ひとりの人

間がまさに一個人としてかけがえのない存在であり、侵すべからざる尊厳をもつ、という考えです。この建学の理念を端的に表現するために、南山学園の各学校はラテン語で Hominis Dignitati、すなわち「人間の尊厳のために」という統一の教育モットーを掲げています。

南山学園がカトリック系総合学園としての教育理念を達成するため、理事長として基本的な方向性を示したものが、この理事長基本方針です。2011年に日本の教育を取り巻く環境変化を踏まえた、新たな理事長基本方針を打ち出しましたが、その後の環境変化はさらに加速度を増しています。一方、南山学園自身も2016年4月1日に学校法人聖園学院との合併を行うなど大きく変化をしています。これらを踏まえ、新たな観点を加えた理事長方針が必要であるとの考えに至りました。

### **教育を取り巻く環境の変化**

2005年の私立学校法改正では、学校法人のガバナンスについて、学校法人経営の観点から理事会、評議員会、監事の役割を定義するとともに、特に監事についてはその機能を強化しました。これ以降、文部科学省は学校法人のガバナンス強化を推進しています。2014年には中央教育審議会の大学分科会において「大学のガバナンス改革の推進について」と題する審議内容が発表され、これに基づいて同年に「学校教育法」の改正が行われました。

大学教育については、2012年に文部科学省から「大学改革実行プラン」が発表され、これに合わせる形で中央教育審議会から学士課程の質的転換を掲げた「大学教育の質的転換」と題する答申が出されました。

小学校・中学校・高等学校の学習指導要領は、「豊かな人間性」「健康・体力」「確かな学力」を総合した力である「生きる力」の育成という理念の下、基礎的・基本的な知識・技能の習得、思考力・判断力・表現力等の育成のバランスを重視した改訂が行われ、2015年度で全ての学年に行き渡っています。

2014年12月には中央教育審議会から「新しい時代にふさわしい高大接続の実現に向けた高等学校教育、大学教育、大学入学者選抜の一体的改革」と題する答申が出されました。これを受ける形で2015年1月には文部科学大臣決定の「高大接続改革プラン」が公表され、センター試験に代わる新テストの検討、大学個別選抜方法の改革に加え、高校、大学における教育改革の施策内容とスケジュールが示されています。

### **南山学園の基本的な方向性**

2011年4月1日付の理事長基本方針では、今後の南山学園の基本的な方向性として、「国際性の涵養」に係る取組みの充実と、「南山大学を中心とした、質の高い学園内教育連携」「地域社会への貢献」の具現化を最重要課題としています。これらについては継続して課

題とします。その実現に向けては、上記の環境変化への対応という観点からも大学がこれまで以上にけん引的役割を担うこととなりますが、その他の各単位校も主体的に臨むことが求められることは言うまでもありません。

今回の基本方針ではこれらに加え、継続する課題をより速く、より適切に実現させることを目的として理事会のガバナンス強化についても最重要課題に加えます。

#### 【南山学園の最重要課題】

- ① 「国際性の涵養」に係る取組みの充実
- ② 「質の高い学園内教育連携」の具現化
- ③ 「地域社会への貢献」の具現化
- ④ 理事会のガバナンス強化

上記①～③の実現のため、各単位校において、南山学園が世間から何を求められているのかを、文部科学省・県関係機関の動向、ならびに南山学園の教育モットー・各単位校の教育方針と照らし合わせながら検討してください。その検討に基づき、各単位校における教育研究活動を点検した上で、その充実を図るものとします。また、南山大学附属小学校および聖園各校を除く各単位校が策定した「20年後の将来像」については、そのビジョンの実現に向けた取組みを継続するものとします。

上記④の実現のため、理事会が適切なガバナンスを行うことができるよう、体制強化のための新たな組織・制度の構築を行うものとします。

各項目の詳細について、以下に述べます。

#### ① 「国際性の涵養」に係る取組みの充実

南山学園の各単位校が、これからも地域はもちろん世界から高い評価・支持を獲得するためには、「国際性の涵養」をより強く意識した教育研究活動を行わなければなりません。世界のどこの地に行き、どのような人と交わるにしても、他者の尊厳を認め、偏見の無い精神で相互の理解と友情を育てることができる国際人の基礎を創ることこそ「国際性の涵養」を説く意図であり、「人間の尊厳のために」を教育モットーとする南山学園の「キリスト教世界観に基づく学校教育」が目指すものだからです。

「国際性」について、2011年の理事長方針作成時には「東海地区の他大学でも国際性を特色とした学部学科が設置され、小・中・高等学校でも国際性を特色とした取組みが実施されている」との認識でしたが、この傾向はさらに強くなっており、日本の多くの学校が「国際化」「グローバル化」を掲げています。このような状況の中、「国際性」について南山学園が他の学校（学園）との差異化を図っていくことは必須となっています。

日本の多くの学校が「国際化」「グローバル化」を掲げているという状況においても、南山学園が行わなければならない、南山学園だからこそできる「国際性の涵養」を意識した教育研究活動とは何なのかを各単位校において改めて検討し、その上ですでに取り組まれている国際教育・国際交流が、現在そして将来にわたって「特色あるもの」と言うにふさわしいかどうかの点検を行う必要があります。点検の結果、その特色がすでに色褪せている、あるいは他の大学、小・中・高等学校の取組みと差異化できない状態であるならば、相当の危機感をもって早急に教育研究活動の改革に乗り出す必要があります。「国際性の涵養」という教育理念を説く意図を十分に理解し、南山学園が行わなければならない、南山学園だからこそできる国際教育・国際交流の取組みを各単位校が責任を持って主体的に創りだしていくことを求めます。

1970年代当時の社会的要請に応える形で設立された南山国際高等学校・中学校は、帰国・外国人生徒教育という形で南山学園の国際教育の一環を担ってきましたが、一学校法人としての社会的な役割の観点、財政上の観点など総合的な判断の結果、2018年度から段階的に生徒募集を停止することとしました。日本社会における国際教育の課題の一つとして帰国・外国人児童生徒教育の問題は依然として存在しています。南山学園においては、南山国際高等学校・中学校のような特別な枠組みではない、「国際性の涵養」をより強く意識した教育研究活動を行っていくこととします。

## ② 「質の高い学園内教育連携」の具現化

前回の基本方針発表以降、南山学園には新たな変化が生じています。2016年4月1日に学校法人聖園学院との法人合併を行い、聖園女学院高等学校・中学校、聖園女学院附属聖園幼稚園、聖園女学院附属聖園マリア幼稚園が加わりました。また、南山大学は名古屋キャンパスと瀬戸キャンパスを統合し、「One Campus Many Skills」を掲げ、改革を進めています。すでに述べたように南山国際高等学校・中学校は2018年度から段階的に生徒募集の停止を行うこととしました。南山学園はその構成を大きく変えようとしており、そこには新たな学園内教育連携が必要となっています。

「質の高い学園内教育連携」を追究するにあたっては、就学前・初等・中等・高等教育それぞれを終えた卒業生が、様々なフィールドで活躍し貢献する際に南山学園で学んだ成果を十分に発揮できるかが重要となります。それを可能にするものが各単位校間の緊密な連携と相互協力であり、その中心となるのが南山大学です。しかし南山大学のみならず各単位校のすべてが主体的な姿勢で臨むことも必要です。連携を考える場合、一般的には縦のつながりが考えられますが、横のつながりもあることを忘れてはいけません。例えば、高等学校・中学校間においては、教員の見識を広げ専門性を高めるために、一定の人数・期間による人事交流の機会を設けることに加え、教育課程（カリキュラム）を通して生徒の交流を行うことが必要です。また縦の連携については、特に学園内での進学とい

う観点から、小学校・各中学校間および高等学校・大学間における緊密な連携、情報交換が必要となります。

さらに、南山学園で学んだ成果を南山学園全体にもフィードバックさせるという観点から、各学校の同窓会との連携も学園内教育連携の重要な一環です。同窓会の各学校への期待をくみとり、また、同窓会が持つ社会との多様なネットワークを活用することで、南山学園での教育効果をより一層広げていくことが期待できます。

### ③ 「地域社会への貢献」の具現化

南山学園は教育理念の一つとして「地域社会への奉仕」を掲げています。企業の社会的責任が大きく取り上げられていますが、教育機関も例外ではなく、むしろ企業以上に社会的責任が問われる存在とも言えます。

南山学園ではこれまでも確かな学力と豊かな人間力を身につけ、地域社会のために責任を持ち貢献していくことができる人材の育成を実践してきましたが、日々社会からの期待、要求に対して教育研究活動を通して説明責任を果たしていかなければなりません。すでに、南山大学においては、実務分野との関連性の深い各学部、研究科（理工学研究科、法務研究科、人間関係研究科教育ファシリテーション専攻など）を中心に、産学連携事業を通じて産業界の要望と本学の知識・技術を有機的に結びつけ、より一層高度な専門知識やスキルを身に付けた人材を育成しています。さらに、南山エクステンション・カレッジでは、これまでも生涯学習の場として多くの人々のニーズに合った学びの機会を提供しています。その他にも、例えば、児童・生徒・学生が主体となるボランティアを始めとした奉仕活動を挙げるすることができます。

これらの活動を通して、恒常的に地域社会との教育連携に取り組むことを意識し、活性化しなければなりません。就学前・初等・中等・高等教育に応じてその連携活動の内容も様々ではありますが、各単位校がこれまで以上に積極的に取り組むことで、南山学園全体が社会に貢献し、社会から得られる信頼を糧にして、より質の高い教育を実践することを期待しています。

### ④ 理事会のガバナンス強化

「国際性の涵養」に係る取組みの充実、「質の高い学園内教育連携」「地域社会への貢献」の具現化を行っていくためには、各単位校独自の努力だけではなく、南山学園としての取組みが必要となります。理事会がリーダーシップを発揮し、各単位校をリードしてだけでなく、各単位校の意思決定は適正か、その決定過程に問題はないか、意思決定されたことが適切に処理されているか、各単位校においてコンプライアンス上の問題はないか、等々のチェック機能も果たさなければなりません。

これらを実行し、南山学園の取組みをより高いレベルのものとするためには、理事会のガバナンス機能をこれまで以上に強化していく必要があります。南山学園は、学園理事会、学内理事会、常務理事会ときめ細やかな理事会運営を行うことにより、これまでも意思決定という点に関しては一定の役割を果たしてきていると評価しています。チェック機能に関しても、定期的な評議員会の開催に加え、監事および監査法人による会計監査、および会計・業務監査制度による内部監査等を行ってきており、一定のチェック機能を果たしてきていると評価していますが、2014年度に南山学園に対して行われました学校法人運営調査委員会による運営調査の結果、「理事会において設置する各学校の進捗管理等に積極的に関与することや、法人としての危機管理体制の強化等、理事会のガバナンス向上のために実効性のある取組みを行うこと」との意見が付されました。これを受け、2015年度から、理事会と各単位校執行部との懇談会を開催し、まずは意思疎通の時間を設けることがはじめられています。また、危機管理体制の強化については、2015年度から危機対応担当理事を置き、各学校での様々な問題への対応を行っています。

しかし、チェック機能の強化という点から、監事制度および内部監査制度の根本的な見直しを行い、先進的で効果的な監査制度を構築することを求めます。

### **南山学園各単位の方向性**

すでに述べたように、南山学園が世間から何を求められているのかを、文部科学省・県関係機関の動向、ならびに南山学園の教育モットー・各単位校の教育方針と照らし合わせながら検討するとともに、各単位校における教育研究活動を点検した上で、その充実を図ってください。また、南山大学附属小学校および聖園各校を除く各単位校が策定した「20年後の将来像」については、そのビジョンの実現に向けた取組みを進め、その上で、今回ここに示す方向性について前向きに受け止めて取組むことを期待します。

#### **南山大学**

- ・ 地域に根ざしつつ、日本全国、世界に開かれた大学として、教育・研究・社会貢献を充実させる。その具現化として、学部・学科、研究科・専攻を問わず全ての構成員が、国際社会という大きな舞台での活躍を意識することができるための教育の仕組みを構築する。特に南山大学が行わなければならない、南山大学だからこそできる国際教育・国際交流への取組みを行う。
- ・ 各単位校のけん引的存在であり、財政的にも南山学園の中で大きなウエイトを占めていることを自覚し、学園全体を見据えた上で、事業の中長期計画策定を行う。

#### **南山高等学校・中学校（男子部・女子部）**

- ・ 教育の特色「国際的視野の育成」を活かす取組みとともに、恒常的な自己点検・評



価を行う。

- ・ 財政基盤を強化することで、事業の中長期計画の健全化を図る。
- ・ 南山大学、南山大学附属小学校との連携をはじめ、高等学校・中学校間の生徒・教員との交流を深めることで、各単位校が特色を活かし、理解し合う環境を構築する。

#### **南山国際高等学校・中学校**

- ・ 最後の卒業生を送り出すまで、在校生の就学環境を損なうことのないよう、理事会および学園内の各単位校と密接な情報共有および協議を行いながら学校運営を行う。

#### **聖霊高等学校・中学校**

- ・ 教育の重点目標の一つである「外国語教育」を通して、生徒の国際性を磨く取組みとともに、恒常的な自己点検・評価を行う。
- ・ 財政基盤を強化することで、事業の中長期計画の健全化を図る。
- ・ 南山大学、南山大学附属小学校との連携をはじめ、高等学校・中学校間の生徒・教員との交流を深めることで、各単位校が特色を活かし、理解し合う環境を構築する。
- ・ 生徒を安定して受け入れることができるよう、「選ばれる」「魅力ある」学校づくりに努める。

#### **聖園女学院高等学校・中学校**

- ・ 南山学園の一員として、「人間の尊厳のために」という統一の教育モットーを十分に理解したうえで、これまでの校訓の具現化を行う。
- ・ 教育の特色である「国際教育」を通して、生徒の国際性を磨く取組みとともに、恒常的な自己点検・評価を行う。

#### **南山大学附属小学校**

- ・ 学園内での進学を視野に入れた質の高い、特色のある教育を行うために、恒常的な自己点検・評価を行い、改善を進める。
- ・ 中等教育での深化が期待できる「南山大学附属小学校ならではの国際教育」を構築するとともに、恒常的な自己点検・評価を行う。
- ・ 財政基盤を強化することで、事業の中長期計画の健全化を図る。

#### **聖園女学院附属聖園幼稚園**

- ・ 南山学園の一員として、「人間の尊厳のために」という統一の教育モットーを十分に理解したうえで、これまでの校訓の具現化を行う。
- ・ 教育の特色である「英語指導」を通して、幼児の国際性を磨く取組みとともに、恒常的な自己点検・評価を行う。

### **聖園女学院附属聖園マリア幼稚園**

- ・ 南山学園の一員として、「人間の尊厳のために」という統一の教育モットーを十分に理解したうえで、これまでの校訓の具現化を行う。
- ・ 教育の特色のさらなる深化のため、恒常的な自己点検・評価を行う。

### **法人事務局**

- ・ 理事会をサポートする部門であるとの自覚を持ち、南山学園全体の将来構想、課題を認識した上で、その具体的な方向性の実現に向けて政策立案する機能を高める。
- ・ 南山学園全体の管理業務の中核であるとの自覚を持ち、各単位校の管理業務のけん引役としての機能を高めるとともに、南山学園全体への社会からの期待と責任に応えることができるよう、絶えず自己点検・評価を行う。
- ・ 理事会のガバナンス強化について、その立案・実行・点検・評価を行う。

### **南山学園の財政基盤確立に向けて**

南山学園における財政運営の基本は、これまで通り、各単位が少なくとも当該単位の収支に対する自覚を強く認識していただくことにあります。さらに、繰越消費支出超過額の厳しい予測に対し、建学の理念の具現化を果たしつつ、教育研究活動のさらなる推進を可能とする裏付けとして、各単位の「財政の健全化」が不可欠であることには変わりはありません。

2008年度の経済社会の激変に伴い発生した南山学園の資産運用問題による多額の繰越消費支出超過額をどのように改善していくかについては、理事会と法人事務局の責任において検討し実施しておりますが、これは各単位校が将来計画を踏まえ、より健全な収支を維持することが当然の前提です。各単位校が適切な幼児・児童・生徒・学生を安定的に確保し、かつ教育研究活動への取組みに一層努力することで得られる高い社会的評価をもって厳しい財政状況を乗り切ることができ、健全な財政基盤が確立できるものと確信しております。

### **おわりに**

はじめに述べたように、南山学園は、「キリスト教世界観に基づく教育を行ない、人間の尊厳を尊重かつ推進する人材の育成」を建学の理念としています。カトリック学校における教育はかけがえのない一人ひとりに神から固有に与えられた力を十全に引き出し、開花させることを目指しています。そのような教育の現場では、各自の個性が最大限に尊重される一方、各自が「共通善」を推進し、快く他者と協力する姿勢が涵養されていくのです。

学園の構成員一人ひとりがこれらのことを十分に理解した上で、理事長基本方針にある課題の解決に努める必要があります。

南山学園が幼児・児童・生徒・学生の人格形成を推進し、確かな学力と豊かな人間力を身につけた人材の育成を通じて社会に貢献し続けていくために、構成員一人ひとりが何をしなければならないかを主体的に考え、互いに協力しながら、一層尽力することを期待します。

以 上

# 2020年度法人事務局事業計画

## I. 2020年度事業計画の概要

2020年4月の改正私立学校法の施行により、学校法人の経営については、より透明性や公平性、そして理事会機能の充実と監事による監査機能の強化が求められることになりました。本学園は時代のニーズや変化に応えながらも、カトリックミッションスクールとしての特徴や役割を自覚し、引き続き「人間の尊厳のために」役立つ人材を、学校教育を通じて育て、社会に役立たなければなりません。各設置校における教育研究の充実と信頼ある学校運営のために、法人事務局は経営の観点から必要な対応を2020年度も推進してまいります。

2020年度の主な新規事業は次のとおりです。

- ・法人事務局と南山大学総務部の統合、理事会のガバナンス強化に向けた総合企画室の在り方を含め、法人事務局自体の組織体制を見直し、必要な対応を行います。

2020年度の主な継続事業は次のとおりです。

- ・私立学校法改正に関連した中期計画の策定、「ガバナンス・コード」の制定により、明示した将来目標や規範に依拠した学園運営を行います。
- ・2018年度・2019年度に行った内部監査の結果から、BCP（事業継続計画）を含めた学園としてのリスク管理体制について検討します。
- ・聖園本部の役割について総括します。
- ・働き方改革への取り組みとして、勤怠管理システムの教育職員への導入や事務職員等研修を行います。
- ・校舎等の耐震対策、PCB処分等、施設の安全管理・維持対策を行うとともに、遊休資産の活用と処分について継続して検討します。
- ・財政改善に向けて、有価証券の運用方法を含め、継続的に改善方策を検討します。

## II. 新規事業

### 1. 学園全体

#### (1) 法人事務局と南山大学総務部との統合に向けた対応

2020年9月に総合企画室以外の事務室を南山大学キャンパス内に移転します。これにより法人事務局各事務室と南山大学総務部の各課室は、情報共有や業務連携を通じて効率的かつ有機的な事務運営を行います。また、この移転により生じる事務運営上の諸課題については、関係部署と協議を行い適切な方法を提案して解決に取り組むとともに、2021年9月までに総合企画室以外の事務室と南山大学総務部の事務組織統合を行うための検討・準備を行います。

#### (2) 理事会のガバナンス強化に向けた総合企画室業務・組織改編の検討

(1)の事務室の移転、統合に合わせ、ピオ十一世館に残る総合企画室の業務についても、昨今の学校法人運営のガバナンス強化、内部統制機能の充実等が求められている観点から、それらの要請に応えるために理事会機能の充実等必要な事項を検討し、それに沿って総合企画室の業務・組織改編を検討します。

### 2. 施設・設備

#### (1) 学園研修センターの整備工事

学園研修センターは2020年で築30年となり、老朽化が目立ち始めましたので、長寿命化対策として、外壁の補修、雨漏り対策、錆止め塗装、照明のLED化、エレベータの更新工事等を3年計画で順次行っていきます。

## Ⅲ. 継続事業

### 1. 学園全体

#### (1) 私立学校法改正による中期計画の策定と実行

2020年4月に改正私立学校法が施行され、役員の職務および責任に関する規程の整備、情報公開の充実、中期的な計画の策定義務等について対応が求められることとなりました。寄附行為改正等、体制整備を行うとともに、新たに2020年度から2024年度の5年間の計画期間とした「南山学園中期計画」を策定し、実行します。実施状況の確認や定期的な目標の見直し等を含め、計画を着実に実行する体制を構築します。

#### (2) 「私立大学版ガバナンス・コード」に基づく対応

2019年6月に策定・公表された「日本私立大学連盟 私立大学ガバナンス・コード（第1版）」に基づき、本学園の自律的で意欲的なガバナンス改善や経営の強化、情報公開等の促進を行うための自主行動基準として「南山学園ガバナンス・コード」を2020年4月に策定し、学園運営の指針を明示しました。今後、指針に沿った学園運営を通じて、より健全で、質の高い教育研究活動を行うことにより、社会からの更なる信頼と理解を得ます。

#### (3) 内部監査

2018年度および2019年度において、リスク管理体制監査として学園内各単位の防災体制およびBCP対策について監査を行いました。2020年度は2年間かけて把握したリスク管理体制について学園としての対応課題を明確にします。

#### (4) 聖園本部の役割の検証

旧聖園学院との法人合併後、法人事務局の各事務室は事務業務を南山学園方式で行うよう聖園各校に指導してきました。聖園本部はそのサポートを担い2020年度で5年目になります。これまでの実績を踏まえ2020年度は聖園本部の役割を総括します。

### 2. 広報活動

#### (1) 学園広報活動

2019年10月に、学園内4校（南山中学校・高等学校男子部、南山中学校・高等学校女子部、聖霊中学校・高等学校、南山大学附属小学校）の連携広報事業「トワイライト合同相談会」の実施をサポートしました。2020年度は、参加校に南山大学も加え、引き続き実施のサポートを行い、学園内での連携を図り費用対効果を高める努力をします。また、「南山学園の社会貢献」をテーマとした学園ブランド形成のための複数回の広告掲出を予定します。

#### (2) 学園 Web ページリニューアル

現在の Web ページは設置から7年が経過しています。2020年10月を目標に、学園 Web ページのリニューアルを行います。Web を利用した情報公開は学校法人運営において必須となっており、情報公開の充実や各設置校 Web ページとの連携を考慮しながら構築します。Web ページを通じて本学園の取組みを広く周知し、理解を得られるよう工夫します。

### 3. 施設・設備

#### (1) 遊休資産等の活用と処分

南山学園が所有する遊休資産等については、多角的に活用方法を検討するとともに、将来的に活用の見込みのない土地については処分を含めた提案をします。

#### (2) 聖園女学院高等学校・中学校正門前土地問題

国道467号線との境界が明確ではなかった聖園女学院高等学校・中学校正門前の土地については神奈川県と確認を進めています。2020年度は引き続き神奈川県に働きかけ、測量に基づいた土地の確定作業を進めます。

### (3) PCB 廃棄物の処分

2016 年度から PCB 廃棄物の処分を開始しました。2019 年度からは高濃度 PCB 廃棄物である蛍光灯安定器の処分を 3 年計画で実施しています。

### (4) 校舎の耐震対策

学園内各校校舎の耐震補強工事は完了していますが、非構造部材の耐震対策は順次対応中です。2019 年度に緊急を要する吊り天井の対策工事を 3 件（南山学園講堂、南山高等・中学校（女子部）第 2 体育館、南山国際高等・中学校小島講堂）実施し、引き続き 2020 年度も南山大学 R 棟および体育センターと南山高等・中学校（女子部）玄関ピロティの吊り天井対策工事を進めます。

## 4. 財務

### (1) 有価証券運用の取り組み

財政基盤を健全かつ強固なものにするため、資産運用によって将来得ることができる収入額と利回りを把握します。また、それを踏まえた安定的でリスクを十分考慮した購入銘柄の選定を行います。

### (2) 財政改善に向けた取り組み

南山学園が未来永劫発展していくため、各設置校の財政状況を正確に把握した上で、適切な財務目標を設定します。さらに、各年度末に実施する財務目標の達成状況評価を踏まえ、継続的に財政改善方策を検討していきます。

## 5. その他

### (1) 勤怠管理システムの教育職員への導入

「労働時間の適正な把握のために使用者が講ずべき措置に関するガイドライン」に基づき、職員の始業・終業時刻を客観的な記録により確認できるようにするため、2019 年度は事務職員を対象に勤怠管理システムを導入しましたが、2020 年度は対象を教育職員の一部に拡大します。

### (2) 2020 年度事務職員等研修の実施

#### ① 「学校法人事務職員の職業倫理」研修の実施

学校法人事務職員に求められる職業倫理について考え、職員一人ひとりの倫理意識を高めることを目的として「職業倫理」に関する研修を実施します。本研修および下記②の研修は 2019・2020 年度の 2 年間に渡って同一内容で複数回実施し、いずれかの年度に職員は参加します。

#### ② 「メンタルヘルス」研修の実施

担当する業務の質・量や配置された職場環境等で精神的に負担がかかり、心身の不調を引き起こす事務職員もいるため、2019 年度に引き続き、予防的な対応や適切な人事管理を学ぶことにより、全ての事務職員等が心身ともに健康で業務に取り組めることを目標とした研修を実施します。

#### ③ 「働き方改革」研修の実施

働き方改革についての理解を深め、管理職は改革を推進するリーダーとして、一般職は改革を意識しながら、より効率的な働き方について考えることを目標とした研修を実施します。

以 上

# 2020年度南山大学事業計画

## I. 2020年度事業計画の概要

2021年9月に大学創立75周年を迎えることを機に、大学の歴史と「国際性」という伝統を振り返りながら、建学の理念である「キリスト教世界観に基づく学校教育」や教育モットーである「人間の尊厳のために」を実現するように各事業を進めていきます。とりわけ今年度からは、「地球規模の関心、私たちの貢献」という新たな方針を掲げ、その言葉を深く心に刻み、本学の使命を果たしていきます。

2020年度の主な新規事業は次のとおりです。

- ・創立75周年記念各種事業の実施
- ・各種大学基本方針の策定と、それに基づく自己改善の取り組み
- ・教職員のより働きやすい環境の整備
- ・留学生受け入れ体制の拡充・構築と外国人留学生別科の新規プログラムの導入準備
- ・100分授業制度の導入に向けた具体的な取り組み
- ・高等教育の修学支援制度開始に伴う学生への経済的支援の対応

2020年度の主な継続事業は次のとおりです。

- ・「南山大学グランドデザイン」の点検・評価
- ・戦略的な情報発信についての継続的検討
- ・教育の質保証システムの構築と運用
- ・国際的な大学間連携の強化と国内における諸大学との新規連携事業の拡充
- ・「大学の世界展開力強化事業」への継続的取り組み
- ・地域連携の促進と取り組みの強化
- ・「大学入学共通テスト」への対応と多面的・総合的な評価を行う入試制度の継続的検討

## II. 新規事業

### 1. 学校全体

#### (1) 創立75周年記念各種事業の実施

2021年9月に大学創立75周年を迎えるにあたり、これまでの歴史を振り返り、南山大学のアイデンティティが何かを確認することで、75周年の先にある大学像を構築していきます。創立75周年プロジェクト実行委員会を設置し、2020年9月より1年間を創立75周年プロジェクト期間と定めて、連続講演会、特設Webページ開設などの広報展開、学内装飾・グッズ制作等、各種事業の展開を実施します。さらに、創立75周年記念事業募金を立ち上げます。

#### (2) 各種大学基本方針の策定とそれに基づく自己改善の取り組み

2019年度に設置した「各種大学方針策定連絡協議会」の指示のもと、「3つのポリシーを策定するための全学的な基本方針」「求める教員像および教員組織の編制方針」等、大学の教育理念・目的を実現するための全6種類の基本方針を策定し、そのもとで、各組織が自らの取組を自己点検・評価し、改善していきます。

#### (3) 教職員のより働きやすい環境の整備

大学の教職員は、大学の運営に関する事務が多忙化する中で、社会的使命としての教育・研究活動や社会貢献活動にも力を入れる必要があるため、長時間労働を誘発しやすい環境にあります。2019年度に結んだ専門業務型裁量労働制に関する労使協定、就業規則の改正を踏まえ、教職員一人ひとりが尊厳をもって生き生きと働ける職場にしていくために、より適切な労働環境を構築していきます。また、既存

の業務や会議のあり方を点検し、スリム化・効率化ができるか、見直しを進めます。

## 2. 教育・研究

### (1) 留学生受け入れ体制の拡充・構築と外国人留学生別科の新規プログラムの導入準備

2019年度、交換留学生の受け入れシステムの拡充に向けたワーキンググループを設置し、その報告書をまとめました。この報告書に基づき、交換留学生が授業を履修できるように、各学部・研究科において授業の方法を工夫していくなど、交換留学生の学部・研究科で受け入れるための検討と準備を開始します。また、外国人留学生別科においては、既存の日本語学習プログラムに加えて、現代日本事情を学ぶ新たなプログラムを設置します。

### (2) 100分授業制度の導入に向けた具体的な取り組み ★

クォーター制を導入して4年目を迎えます。2019年度にまとめたワーキンググループによる中間報告の結果を経て、タイトになった年間スケジュールを改善するために、2021年度から100分授業を導入します。その導入に向けて、2020年度はアクティブ・ラーニングの積極的導入をはじめ、100分授業の弾力的な運用の仕方を具体的に準備していきます。

### (3) 高等教育の修学支援制度開始に伴う学生への経済的支援の対応

修学支援として、高等教育の修学支援制度開始に伴う学生への経済支援が2020年度より開始されます。準備期間が短い中、既存の制度と組み合わせ、複雑な対応が求められるため、より分かりやすく、必要な学生に情報が届くようにしていきます。

## Ⅲ. 継続事業

### 1. 学校全体

#### (1) 「南山大学グランドデザイン」の点検・評価

2007年3月に「南山大学グランドデザイン」を策定しましたが、10年以上が経過し、当初は予想できていなかった様々な変化が生じています。2007年当時と現在の外部環境の変化、内部環境の充実、および文部科学省の高等教育改革の新たな指針等を踏まえて、2019年度より学長室に点検チームを設け、中間報告の骨子を作成しました。また、2019年度末には、私立学校法改正に伴い、学校法人単位の中期計画の策定義務化され単位校としての中期計画を策定しました。今後は、この中期計画を踏まえつつ、それぞれの課題について点検と見直しを行い、報告書の形にまとめていきます。

#### (2) 戦略的な情報発信についての継続的検討

2019年度、本学の歴史とアイデンティティに基づく「南山大学の特色、魅力」とは何であり、またそれをどう発信すべきかを改めて考えるべく、広報に関わる教職員や担当課室が集まる大学戦略広報ワーキンググループを設置しました。このワーキンググループが中心となって、本学の特色や魅力を明確にし、それをより広く戦略的にアピールしていきます。

### 2. 教育・研究

#### (1) 教育の質保証システムの構築と運用 ★

本学は、2020年度に大学基準協会の認証評価を受審します。適切な受審が行われるよう、引き続き対応に当たります。2019年度は、自己点検・評価委員会による各組織の自己点検・評価の役割と、それを全学的な観点から点検・評価する内部質保証推進委員会の体制を整備し直しました。この体制を効果的に運用し、大学、組織、構成員の各レベルでPDCAサイクルが適切に循環するよう、点検と改善を継続していきます。特に、共通教育委員会、各学部・研究科において、ディプロマ・ポリシーに示した学習成



果に対応するカリキュラムが適切に設定されているか、カリキュラム・マップおよびカリキュラム・ツリーについての検証を継続していきます。

## **(2) 国際的な大学間連携の強化と国内における諸大学との新規連携事業の拡充**

協定を締結した海外の大学は、2020年2月時点で110大学(2018年度末時点102大学)に達しました。2015年に策定された「南山大学国際化ビジョン」では、グランドデザイン完成年度である2027年度までに130以上の大学との協定締結を目指しています。今後も、協定未締結国・地域を中心として、積極的に交流協定校の開拓に努めるとともに、締結した協定を有効に活用し、交流の活性化を図っていきます。国内では、教育・研究の多くの面で連携事業を続けている名古屋大学や豊田工業大学等との連携を強化していきます。また、2018年度に上智大学と締結した包括協定に基づき、2019年度は、職員の共同SD研修会等が実施されました。教職員や学生の相互交流や国内留学、単位互換などの新規連携事業に向けて、引き続き検討していきます。

## **(3) 「大学の世界展開力強化事業」への継続的取り組み ★**

上智大学と協同して実施してきた「大学の世界展開力強化事業(中南米)」が2019年度に終了しました。そこで作りあげたプラットフォームの一部は、外国人留学生別科サマープログラムの一つのコースとして継続していきます。また、2018年度に採択され、現在事業継続中の「大学の世界展開力強化事業～COIL型教育を活用した米国等との大学間交流形成支援～」に採択された取り組み「日米をつなぐNU<sup>4</sup>-COIL<sup>2</sup>～地域に根ざしたティラーメイド型教育プログラム～」を継続し、特に、各学部・研究科で積極的にCOIL型授業を導入していきます。

## **(4) 研究の拠点としての南山大学へ向けた研究所と研究科の連携 ★**

本学には、学部・大学院とは別に独立した3研究所が存在しています。限られた資源と人材を有効に活用するために、これらの研究所と既存の学部・研究科、とりわけ研究科との共同研究を推進し、研究の拠点としての南山大学の形を引き続き構築していきます。

## **(5) キャリア支援への継続的取り組み**

2019年度、キャリアサポート委員会と就職委員会を一体化し、キャリア支援委員会を発足することで、在学時のキャリア支援から、卒業までのキャリア形成を扱う組織体制を確立しました。大学の教育活動全体の中にキャリア支援を位置づけ、より効率的かつ柔軟な支援活動を進めていきます。また、同窓会との連携を強化して、同窓会活動に在学生在が積極的に参加できる仕組みや、同窓生と在学生在が接点を増やし、在学生のキャリア意識を高める方法を考えていきます。

# **3. 施設・設備**

## **(1) キャンパス施設設備計画(Ⅲ・Ⅳ期)の展開とその施設・設備の積極的活用**

キャンパス施設設備計画(Ⅲ・Ⅳ期)により実現したバリアフリー化を踏まえ、「ユニバーサル受入」の体制が整備されているか、点検・改善を進めていきます。また、これまで強化してきた、学生同士の交流や学生の自主的な活動を支援する各種施設について、引き続き充実を図るとともに、その活用状況を検証していきます。特に、2019年度に新設した学生セミナー室について、学生の自主的な活動を促進させる工夫を考えていきます。

# **4. 社会貢献**

## **(1) 地域連携の促進と取り組みの強化 ★**

これまで以上に、大学の各構成員が、知的・人的・物的資源を社会に向けて活用するよう心掛けていきます。特に、地方公共団体や産業界をはじめとする社会全体が、大学に対してどのようなことを期待しているかというニーズを適切に把握し、産学官連携の可能性を積極的に模索していきます。さらに、人類学博物館、南山エクステンション・カレッジ、図書館の一般利用者への開放など、教育的な地域連

携について、継続と拡充を図っていきます。

2019年度、本学は従来からの避難所指定に加え、新たな災害協定を名古屋市と締結し、災害時における地域の拠点としての役割（施設提供等）を果たしていくことを改めて確認しました。地域住民の皆さんにとっての重要な空間としての役割を継続していきます。

## 5. その他

### (1) 「大学入学共通テスト」への対応と多面的・総合的な評価を行う入試制度の継続的検討

2020年度入試の志願者数は、主要3入試（一般入試・全学統一入試・センター利用入試）で2,331名減の22,137名となりました。その要因について、IRも活用しながら詳細に分析していくとともに、志願者確保のための不断の努力を続けます。特に、2020年度は、改組予定の理工学部の募集開始年度であり、適切な広報と志願者確保に努めます。また、学力の3要素（「知識・技能」、「思考力・判断力・表現力」、「主体性・多様性・協働性」）をより多面的・総合的に評価するべく、既存の総合型選抜入試に続く入試制度の導入を引き続き検討していきます。2021年度入試よりセンター試験に代わる「大学入学共通テスト」が開始されるため、その適切な活用に努めていきます。

大学院入試については、2019年度、法学部では所定の要件を満たすことで3年終了時の卒業が可能な「司法特修コース」を設置し、大学院進学を促しています。他研究科においても、より多くの大学院志願者を獲得する方法を検討していきます。

### (2) 財政基盤の強化と募金活動の推進 ★

本学の教育・研究がさらに発展していくために、財政基盤の強化を引き続き進めていきます。入学定員の充足を図りながら、支出削減・学納金改定検討小委員会で支出削減等の方策を継続して検討し、その検討結果を確実に実施していきます。また、2019年度に本格的に募金活動を開始した「レーモンド・リノベーション・プロジェクト募金」についても、卒業生・企業等への有効な周知方法について検討を進めていきます。

以 上

# 2020年度南山高等学校・中学校（男子部）事業計画

## I. 2020年度事業計画の概要

学園のモットーである「人間の尊厳のために」を日々の教育活動の中で具現化できるように、「地の塩、世の光」の聖書のみ言葉を深く理解し、国際的視野を持ち、人類愛を実践できる人材の育成に努めます。

「新学習指導要領」実施と「高大接続改革」という社会の変化に対応し、生徒たちの学習意欲、キャリア意識を高め、コミュニケーション能力を涵養し、総合的な学力を培っていきます。

2020年度の主な新規事業は次のとおりです。

- ・統合型校務支援システムを本格稼働します。
- ・ICT機器、特に可動式黒板の教育的効果の検証を行います。
- ・労働時間の適正な把握義務化への対応を行います。

2020年度の主な継続事業は次のとおりです。

- ・中長期を見通した将来構想の策定をします。
- ・聖書に基づく価値観の育成・宗教心を涵養します。
- ・「新学習指導要領」と「高大接続改革」への対応を行います。
- ・ICT機器の充実と活用をすすめます。
- ・スクール・カウンセラーと連携した精神的なストレスを抱えた生徒へのケア、サポートを行います。
- ・非常時における危機管理体制、および保護者との連携の確立に努めます。
- ・「高大接続改革」を見据えた6ヵ年一貫の体系的な進路と進学を支援します。
- ・『部活動ガイドライン』に沿った部活動を実施します。
- ・「国際的視野の育成」を目指す3つの海外研修の充実を目指します。
- ・学園内単位校との連携を踏まえた広報活動の充実を目指します。

## II. 新規事業

### 1. 学校全体

#### (1) 学園共通統合型校務支援システムの導入

教員の校務軽減およびセキュリティ強化のために、学園統一の新たな校務支援システムを導入し、2020年度より運用を開始します。校務システム委員会による保守・点検を行います。

### 2. 施設・設備

#### (1) 可動式電子黒板の教育的効果の検証

教育のICT化に向けた環境整備の一環として、2018年度から液晶テレビ型の電子黒板を購入してきました。2020年度は電子黒板の使用状況と教育的効果の検証を行い、2021年度に全教室に電子黒板を配置し、Wi-Fiも完備します。授業をする側の教員も受ける側の生徒も満足度の高いものになると期待されます。

#### (2) 勤怠管理システム用デバイスの導入

労働時間の適正な把握義務化への対応として、勤怠管理システム用デバイスを導入します。

### Ⅲ. 継続事業

#### 1. 学校全体

##### (1) 中長期を見通した将来構想の策定

「将来構想委員会」を中心として、生徒の優れた才能を発見してその個性を伸ばできるように、「生徒に求めるべき学力」と「教科教育力の向上」について議論しています。その合意を基準として各教員が自覚と責任を持って自らの教育実践を見直します。中学校の卒業生 200 名がそのまま高等学校に進学することで、6 年間の計画的・継続的な教育指導が展開でき、ゆとりを持った効果的な一貫教育が可能です。また、カトリック学校としての男子部の使命、学園内他単位との連携、南山大学附属小学校との教育の接続、財政見直し等、内的刷新が図れるよう将来計画を議論、策定していきます。

##### (2) 聖書に基づく価値観の育成・宗教心の涵養

宗教の授業は、人間にとって大切な事は何か、何を目指して生きていけばいいのか、心を豊かにするための時間であり、カトリック学校として何より大切にしています。中学校では最初に男子部の歴史を学び、南山をよく知ると同時に、母校を愛する人物の育成を目指します。また高等学校では古今東西の世界の思想を学び、より広い視野の育成に資するよう、聖書に基づく価値観と宗教心を涵養します。

##### (3) 新学習指導要領・高大接続改革への対応

生徒が希望する進路を実現できるように、本校独自のカリキュラムを精査、検討します。新学習指導要領と高大接続・大学教育・大学入学者選抜改革に対する研修会やセミナーでの情報収集をもとに、調査書や指導要録の精緻化と簡素化という相反する議論にも対応できるよう、生徒の基本情報や活動歴等を記録した e ポートフォリオの取り組みを継続します。

##### (4) ICT 機器の充実と活用

教育課程を支えるために必要な ICT の環境整備を進めます。全学年の普通教室に可動式電子黒板を導入することで、生徒の学習への興味・関心を高めていきます。特に 2020 年度は教育用ソフトウェア (SKYMENU) の整備拡充を行います。

##### (5) 教職員の研修・研鑽・自己点検

『カトリック学校における教職員の役割』、『男子校での宗教教育』等のテーマで、カトリック学校の教員に相応しい研修・研鑽・自己点検の機会を設けています。また経験年数の異なる教員同士での話し合いを通して、各教科の教授法や生徒の生活指導、部活動の指導法、学年・学校行事の対応などについて、教育力の向上を目指しています。

##### (6) スクールカウンセラー (SC) との連携による生徒へのサポート

週に 4 日間、2 名の臨床心理士の資格を持った SC が相談室を開室し、心のケアに必要な生徒および保護者が利用しています。SC は個人情報を守りつつ、該当生徒の担任・学年・カウンセリング委員会と密接かつ迅速な連携によって生徒をサポートしていきます。

##### (7) 危機管理体制

非常事態発生時には、情報システム委員会や Web ページ委員会と連携し、メール配信と Web ページ等で生徒・保護者に連絡します。授業中だけでなく生徒の登下校時等、様々な状況下での避難訓練に加え、毎年新学期に「防災用資料」を記入させ、非常事態発生時の対応を周知徹底しています。南海トラフ地震や火災等、自然災害を想定し、非常事態用の食料・日用品・簡易トイレ等を備蓄・管理しています。

##### (8) 保護者・在校生・卒業生・外部向け Web ページの拡充

保護者・在校生・卒業生だけでなく、男子部に興味・関心のある方々に向けての情報発信をさらに充実させていきます。フェイスブックでは学校生活の様子を写真とともに英文・和文の解説付きで発信しています。大学入試合格一覧や部活動のページの更新も随時行っています。保護者・在校生へは緊急のお知らせだけでなく、学校行事や学年行事、部活動などの情報を、また卒業生に対しては再受験や各種

証明書等の情報を提供しています。

## (9) 植栽の検討 ★

緑溢れるキャンパスを目指し、四季を通じて生徒や教職員、来校者の癒しの場となるよう植栽を実施します。緑化を推進するとともに、「八事の森のミッションスクール」として自然環境の教育にも力を注いでいきます。

## 2. 教育・研究

### (1) 「新テスト」を見据えた授業内容の検討

生徒の主体的・協働的な学習の確立を目指してアクティブ・ラーニングを実施しています。英語の授業については、『NEW TREASURE』をテキストにしており、英検とGTEC受験、外国人教師と日本人英語教師とのティーム・ティーチングを通して4技能が伸長するように対応します。中3時の「アチーブメントテスト」や定期考査、実力考査の「検討会」を教員の教材研究・授業研究の一助とし、授業力・教育力向上の向上を図っています。

### (2) 図書館の充実

校内で最もアクセスのよい図書館は、「知の拠点」として日曜日を除いて毎日開館しています。すでに5万冊以上の蔵書がありますが、生徒の希望図書を積極的に購入し、将来的には6万冊に達する予定です。世界遺産のDVDやクラシック音楽のCDなど視聴覚資料も充実しており、英検やTOEFL等の語学教材の貸し出しもしています。またPCが活用できるメディアコーナーや、外の樹木や草花を眺めながら学習できる読書カウンター、60席の閲覧テーブルが配置され、自学自習の場になっています。館内の一番奥には1クラスの授業が行える学習室があり、調べ学習にも適しています。

### (3) 6ヵ年の体系的な進路・進学支援

- [1] 中1～中3「中学生のキャリア教育」：中1で「市内探訪」、中2で「職業体験」、そして中3で養護施設や障がい者施設での「福祉体験」を実施します。
- [2] 中1～高3「オープンクラス」：通常とは異なる学びの体験を通じて興味・関心を広げ、進路を考える契機になります。本校教員だけでなく、在校生も講師になります。
- [3] 高1「オリエンテーション合宿」：1泊2日の行程で京都にて実施します。1日目は各部長の講話や社会人講話を聴き、2日目は京都市内の大学を見学します。
- [4] 高1・高2「進路の日」：進路を具体的・主体的に考えるように、社会人やOBの現役大学生など、様々な方による講演会を実施します。
- [5] 高2「総合講座」：全国10数大学の大学教員による1講座90分の模擬授業を、自身の興味関心に沿って午前・午後の2講座受講します。
- [6] 高1～高3「大学説明会」：全国10数大学の入試課の方から、各大学の特色や最新の入試情報等についての説明を受けます。
- [7] 高1～高3「南山大学学園内オープンキャンパス」：南山大学にて、男子部・女子部・国際校・聖霊・聖園の学園内単位校合同で各学部学科の説明を受け、模擬授業も受講します。また南山大学在学中のOBによる大学生活紹介もあります。
- [8] 高1～高3「進路調査」：志望大学や志望学問だけでなく、学習時間や学習意欲等のアンケート調査を実施し、その結果の分析・検証を面談等に活用しています。
- [9] 高2「大学受験報告会」：大学受験を終えた高3生に、高2生に対してエールを込めて受験体験談を語ってもらいます。
- [10] 高1～高3「外部模試」：高校の各学年で年間2回以上外部模試を受験し、その結果の分析・検証を進路指導に役立てています。

#### (4) 生活指導

「安全・健康・美化」のテーマに沿って、主体的に生活実践できる生徒の育成に努めます。始業式や終業式の式典後に生徒への情報提供をし、明確な指導方針を提示していきます。また合同 HR や講演会を開催し、自転車通学者に対する交通安全や学校内外での携帯電話の取扱い方等、その問題点を認識させ対処法を学ばせます。

#### (5) 生徒の自治活動と社会貢献

生徒自治会の自発的・積極的な活動は、一人ひとりの生徒にとって有意義なものとなっています。9月の文化祭と体育祭、3月のスポーツ大会、児童養護施設の子どもたちを招待する2月のスプリングカーニバル、文化行事等の一層の充実を目指します。2020年度の文化行事は、中・高共に東京から劇団を招き、演劇を学園講堂で上演する予定です。文化祭は展示の更なる充実や全体運営の向上が期待されます。生徒議会と各委員会は、学内環境の充実と美化、講演会等の文化活動、機関紙『南窓』の発行、3校（男子部・女子部・中京）合同地域活動、他校との交流・連携活動を日常的に取り組んでいきます。

#### (6) 部活動

部活動は『部活動ガイドライン』に沿って、自主性・創造性、他人を思いやることのできる人間の育成を目指します。心身ともに健康で安全な部活動が継続できるよう、事故防止の対策・啓発として、熱中症対策・AED講習会等も開催しています。運動部では、アメリカンフットボール部の全国大会への常連実績だけでなく、ラグビー、柔道、硬式テニス、水泳、バドミントン、サッカー、バスケットボール等も県大会常連となりました。文化部では将棋部が幾度かの全国大会への出場経験をはじめ、ブラスバンド部も個人の部門での全国出場や、写真部等々が外部の大会や発表会に積極的に参加しています。なお、ブラスバンド部は女子部器楽部との合同コンサートを毎年開催しています。

#### (7) オーストラリア研修、ニュージーランド・ターム留学およびイタリア・キリスト教文化研修

「国際的視野の育成」の観点から2つの海外語学研修を実施します。『オーストラリア研修』では、約3週間、ホームステイ先と学校の2つの場で英語を使い学びながら、現地の文化や人々の考え方に触れ、多様な考え方を身につけます。「ニュージーランド・ターム留学」では、約3ヵ月間現地生活を送ることでツールとしての英語を身につけます。どちらのプログラムも、研修中に学んだことが南山での学校生活、そしてその後の人生において大きな果実となるよう、内容の充実を図っていきます。

『イタリア・キリスト教文化研修』は18回目を迎えました。年末の8日間、クリスマスを祝うサンピエトロ大聖堂のローマ、聖フランチェスコのアッシジ、フィレンツェ、ピサ、ミラノを訪れます。レオナルド・ダ・ヴィンチの『最後の晚餐』で有名なサンタ・マリア・デッレ・グラッチェ教会やウフィツィー美術館、その他世界遺産となっている史跡を、教会のミサに参加しながら研修します。

#### (8) 広報活動の充実

日常的な教育活動を広く理解してもらい、多くの児童およびその保護者に本校への入学を希望していただくために、春・秋・冬に開催される本校主催の説明会や体験授業を中心とした広報イベントをより充実させていきます。また、新校舎完成を機に始めた塾団体等を招いての学校紹介を継続するとともに、フェイスブックやWebページの満足度を高めることで、本校の教育に関する理解を広めていきます。さらに、中学校受験志望者の裾野を広げることで本校の志願者を増やすため、私学協会を核にしたPR活動、イベント、学習塾などが実施する説明会などでの内容を充実させます。2020年度も、学園広報委員会の手助けも受けながら学園内他単位との連携による説明会を実施します。

#### (9) 南山大学・学園内他単位・南山大学附属小学校との連携推進

学園内高等学校・中学校とは部活動・生徒会活動において活発な交流を展開しています。また南山大学とは、大学説明会・オープンキャンパス等への参加に加え、様々な部活動での大学の施設借用、社会科や英語科の授業における大学留学生別科の学生による講義など、高大連携を積極的に進めています。

さらに、南山大学附属小学校とは、小学校が行っている「特別支援教育連続講座」の会場を提供したり、研究会「真教育」へも将来構想委員会を中心に参加しました。児童生徒間ではブラスバンド部の演奏会を開催し、交流を継続しています。今後も幼稚園から大学までを有する総合学園の理念に基づき、より充実した環境を提供します。

### 3. その他

#### (1) 学園内単位校における教職員の人事交流 ★

学園内単位校との人事交流に努め、より良い実践を共有することで活性化に繋げていきます。特に同じ教科の教師が協働することで、「教科教育力」の向上を図っていきます。

#### (2) 専任教員枠の検討 ★

6 ヶ年一貫教育を体系的に推し進めていくために、国際校からの移籍による専任教員数増加に伴う校務分掌の適正配置を検討し、学習面だけでなく生活面でも生徒を支援していきます。

#### (3) 財政状況にかかる検討 ★

財政状況の改善に向けて2018年度より学納金改定を行いました。さらに補助金の獲得に努め、教育環境を低下させることのないようにしながら、支出削減などに向けて検討を進めます。

以 上

# 2020年度南山高等学校・中学校（女子部）事業計画

## I. 2020年度事業計画の概要

大学入学共通テストや次期学習指導要領を見据え、ICT環境の整備を進めるとともに、「人間の尊厳のために」生きる人を育てるための、キリスト教精神に基づく人格教育を主軸とした6ヵ年の体系的な一貫教育の確立、校訓「高い人格・広い教養・強い責任感」の動機づけとなるよう教科教育のさらなる充実を図っていきます。また、これらに資するよう海外研修等の多様な体験プログラムも継続していきます。

2020年度の主な新規事業は次のとおりです。

- ・学園共通統合型校務支援システムの運用を開始します。
- ・勤怠管理システム導入など、学校改革を推進します。
- ・財政状況の改善に向け、一般寄附の募集を開始します。
- ・3学年の教室に電子黒板機能付プロジェクターを設置するなどICT環境の整備を進めていきます。

2020年度の主な継続事業は次のとおりです。

- ・大学入学共通テストや次期学習指導要領への対応を考えたカリキュラムの編成を検討していきます。
- ・精神的なストレスを抱えた生徒に対して、きめ細やかなケアとサポート体制を強化していきます。
- ・第1体育館の建て替えに向け、学園内関係部署との折衝を行っていきます。

## II. 新規事業

### 1. 学校全体

#### (1) 学園共通統合型校務支援システム（スコーレ）の運用開始

教員の校務軽減ならびに情報セキュリティ強化のため、新たな学園共通統合型校務支援システム（スコーレ）の運用を開始します。またこれと同時に、担任教員31名にノートPCを貸与し、円滑に校務が処理できる環境を構築していきます。

#### (2) 学校改革の推進 ★

学校における働き方改革は大きな課題です。勤怠管理システムを導入し客観的な労働状況の把握を行うとともに、校務分掌等組織の再編や行事の見直しを行っていきます。また、部活動顧問のなり手不足や負担感を解消するために、部の統廃合や外部人材の活用も含めた議論を進め、再編を検討していきます。

#### (3) 一般寄附の募集開始 ★

ICTを利用した教育環境の整備、第1体育館の建て替えをはじめとする大規模な事業計画を進めるにあたり、女子部の財政状況は厳しさを増しています。収入増の一助となるよう、2020年4月より一般寄附を募ります。個人1口1万円、法人1口5万円を基準とし、在校生の保護者や卒業生をはじめ広く呼びかけていきます。

### 2. 施設・設備

#### (1) ICTを活用した教育環境の整備 ★

2019年度半ばに専任教員・期限付講師用にiPadを60台レンタルし、授業や部活動等での活用が始まりました。2020年度はその活用の幅を更に広げ、教職員間の会議などで活用し、ペーパーレス化も進めていきます。また、中3と高1、2年の教室に電子黒板機能付きのプロジェクターを設置し、授業で積極的に利用していきます。



### Ⅲ. 継続事業

#### 1. 学校全体

##### (1) キリスト教精神に基づく人間観、世界観、「人間の尊厳のために」(建学の精神)生きる人となるための価値観の育成

宗教の授業とは別に、総合学習やホームルーム活動、行事のなかで宗教的講話の機会を設けています。各学年の事情に合わせ、本校の指導司祭だけでなく他の修道会の神父やシスターにも依頼し、生徒たちの心の成長を促していきます。

中1の宿泊行事『校外教室』と中2の『静修会』を連動させることも視野に入れつつ再編を図っているところです。中3の長崎研修旅行、高2の沖縄研修旅行の折には、現地の教会をお借りし、その地の歴史の話に耳を傾け、共に平和の祈りを捧げています。

日々の朝の聖歌とお祈りは欠かせません。また、月曜日の朝礼時には指導司祭による講話(『朝のころ』)、毎月1回放課後に行われるミサも続けていきます。

クリスマスの時期には、全校生徒が参加するクリスマス聖式、中1の希望者が参加するクリスマス修養会、音楽部員を中心としたクリスマス聖歌隊コンサート、器楽部員有志による医療施設でのクリスマスコンサートなども大切なミッションの機会と捉え、引き続き実施していきます。

##### (2) 6ヵ年の体系的な一貫教育の確立

中高6ヵ年の体系的な一貫教育の内容を科目ごとに明記した『中学学習の手引き(教科別)』・『高校学習の手引き(教科別)』をそれぞれ入学時に配付します。

また、年度初めに、学習についてのアドバイスやさまざまな学問分野の紹介、職業紹介、大学入試の仕組み等を詳述した『学年別進路の手引き』を、中3から高3に配付します。秋には、主に卒業生の社会人や大学生等によるアドバイスをまとめた『進路の手引き・別冊』を全校生徒に配付します。6ヵ年のゆったりした流れのなかで生徒たちが自らの将来をじっくりと構想できるよう、合わせて11冊の『進路の手引き』を在学中に配付します。

生徒たちが安全・安心に生活できるよう、生活指導の一環として中1では「インターネット安全・安心講座」、中2では女性警察官を招いて「対話型防犯教室 ― 痴漢被害等に遭わないために」を実施します。高1では「ネットいじめ対策講座」を実施します。

6ヵ年の縦のつながり・交流としては、部活動の活動はもちろん、文化祭や体育祭の行事を中高一緒に開催し、高校生有志を中1クリスマス修養会にお手伝いスタッフとして派遣しています。

6月には、全学年で芸術鑑賞会を実施します。2020年度は音楽座によるミュージカル『SUNDAY』鑑賞を予定しています(これまで、劇団四季、名古屋フィルハーモニー交響楽団の公演、狂言、落語、映画等の鑑賞を実施してきました)。

高3の3学期の特別授業では、6ヵ年の集大成として、高3担当以外の教員も授業を担当し、最終学年の最終学期にふさわしい有意義なものにしていきます。

キャリア教育の一環として、卒業生を含めて外部から講師を招き、特別授業や講演会を実施します(これまで講師に、臨床心理士、弁護士、判事、医師、TV放送編成制作局員、一級建築士、日本モンキーセンター学芸員、ジャイアントパンダ飼育係、警察署少年係、自動車メーカーエンジニア、損害保険会社人事部社員、予備校講師、様々な分野の専門家をお招きしました)。各種進路講演会の実施も検討していきます。

中1から中3までは「(中高一貫校向け)学力推移調査」、高1から高3までは「スタディサポート」、高校は外部模試を実施し、6ヵ年を通した系統的な学習・進路支援体制を推進していきます。

中高連携をより一層強化するため、2012年度に「併設型中学校・高等学校」に移行しました。そのメリットを活かし、高校の家庭科教科書の中3で購入し、中学の授業をより高度な内容にしていきます。

### (3) 第1体育館建て替えの検討 ★

建築基準法改正に伴い変更が生じた建て替え計画を見直すため、新たに専門委員会を設け、学園内関係部署とも連携・折衝しながら早急に再立案します。また、同時に建て替えのための資金計画を立て、2020年度補正予算にて第2号基本金の組入を開始します。

### (4) 精神的なストレスを抱えた生徒に対するケア、サポート体制の強化

スクールカウンセラー(臨床心理士)、教育相談主任、養護教諭、保健委員会委員長、生活指導部長、教頭、副校長で構成する校内サポート委員会を毎月1回開き、各学年会と連携してケアの必要な生徒の個別サポートを継続していきます。保健室の常時2人体制も継続していきます。

### (5) 家庭(保護者)とのより密接な連携の推進

家庭との密接な連携を推進していくため、学年別保護者会、クラス別保護者会、授業参観、個別面談だけでなく、部活動の保護者会も実施していきます。保護者対象の講演会も実施していきます。(2019年度は、南山大学准教授池田満先生による講演[演題「子どもの人間関係について親ができること～“友達以外”を知っていますか～」]を中2保護者対象に実施しました。)

保護者対象の「宗教講話」も実施しています。学年通信・クラス通信の拡充による、学年・クラスと家庭とのより一層の連携強化も図っていきます。

### (6) 植栽管理についての検討

校舎建築から年月が経ち、また近年の気候変動により、植栽という資本を失っていく状況にあります。対処として、校舎建築当時のコンセプトおよび植栽の状況を熟知する業者のコンサルティングを活用して費用対効果の高い、かつ教育の観点もふまえたメンテナンスを引き続き検討していきます。猛暑対策として自動灌水システムの見直しも行います。

## 2. 教育・研究

### (1) 国際的視野の育成

国際的視野の育成を図るため、主に高1・高2希望者を対象として、夏休みにイギリスコース、カンボジア・ベトナムコース、冬休みにイタリアコースの計3コースで海外研修を実施します。

### (2) 男女別学の特色を生かした教育の推進

愛知県下唯一の男女別学校という特色を生かすため、男子部ブラスバンド部・女子部器楽部の「ジョイントコンサート」を開催します。その他、生徒自治会レベルでの交流も継続していきます。

### (3) 特色ある教育づくり

2009年度から世界117カ国が参加する文部科学省指定事業「地球学習観測プログラム(グローブ)」の指定校としてGLOBE委員会を設置し、生物・水質・大気の観測調査をしています。

2015年度に国立研究開発法人科学技術振興機構の「中高生の科学研究実践活動推進プログラム(学校活動型)」に採択されました。学校が主体となり、学校と大学等が連携・協働し、中高生自ら課題を発見し、科学的な手法にしたがって進める探究活動の継続的な取り組みを推進するプログラムです。2018年度でプログラムは終了しましたが、学校独自で引き続き活動を行っていきます。

理科主催の特別企画として、中1での動物園実習、中2でのプラネタリウム見学、JAXAや国立天文台による授業やさまざまな分野の研究者による「出前授業」を行います。

技術家庭科では、高1の「家庭基礎」で日本新聞協会が行っているNIE(Newspaper in Education)活動の「新聞切り抜きコンクール」への参加を継続していきます。また、技術家庭科と保健体育科が共同で初めて実施した近隣の2つの保育園での保育実習も継続していきます。

社会科や国語科主催のフィールドワーク企画も引き続き検討していきます(2019年度は国語科ツアーを企画し、古都京都を訪れました)。

#### (4) 2020年度実施の大学入学者選抜試験への対応

2021年1月から実施される予定の「大学入学共通テスト」に向けて、試行テストの情報や文部科学省、各種教育産業からの情報なども分析しながら、必要な対策をこれまで以上に実施していきます。

#### (5) 次期学習指導要領改訂に向けたカリキュラムの検討

新しい時代の学力育成を目指す次期学習指導要領改訂を見据えつつ、各種研修会やセミナー等に参加し情報収集に努め、職場全体へ周知していきます。また同時に、女子部の独自性を失うことのないカリキュラムを作成していきます。

#### (6) 英書の多読の実施

英語科では、2021年度の大学入学共通テストに向けて4技能（聞く、話す、読む、書く）の育成を図るため、中1から高1においては授業内、全学年で授業外の英書の多読活動を行います。また、希望者向けの朝多読や、休み時間でも使える読書室を設けます。将来的にはiPadを使っての多読、多聴が同時にできるようにします。2018年度から4年計画で英書を計約5,000冊購入し、充実した多読環境を整備します。

#### (7) キャリア・トライアル（職業体験プログラム）

2016年度からキャリア教育の一環として、高校生の希望者を対象とした職業体験プログラムをスタートさせました。2020年度も引き続き実施し、募集人数を70人に拡充します。具体的には、まず、ガイダンスを受け、次に事前学習、実際に3～5日間の職業体験、その後振り返りを行います。文化祭での展示発表も行います。また、中3を対象に、キャリア・トライアルの報告を含む高校生活全般や進路に関して、自分たちの経験を伝える場を設ける活動も行います。

#### (8) 性に関する教育

保健体育科・家庭科の授業で性に関する教育は実施していますが、高2生向けには、産婦人科医の方に、実際に医療現場でどのような性の問題が起きているのか講演をしていただき、自分の問題として考えていく機会を設けます。

#### (9) 教職員の研修・研究

教員の研鑽・自己点検に資するため、学校生活、学習、進路、行事等についての生徒アンケートを全学年で実施します。また、社会科教科会が積極的に行っている教員向けの授業公開を、他教科にも呼びかけて拡大し、ICTを活用した授業実践等についても情報交換を図っていきます。

年に2回実施している教員研修については、教職員の意見を聞きながらニーズに合ったプログラムを策定していきます。また、研究助成金を利用しての外部研修への参加も促していきます。

2019年度の教育・研究活動をまとめた『年報』30号を発行し、教員の研鑽・相互学習を促します。

#### (10) 南山大学・南山大学附属小学校との連携の推進

高校生に向けては南山大学学園内オープンキャンパスへの参加を呼びかけ、保護者向けには南山大学キャンパス見学会を実施します。総合学習の一環としては、高1を対象に南山大学の各学部の先生による特別授業「南山大学土曜セミナー」についても引き続き実施していきます。また、心理人間学科の先生に依頼して2019年度から新たに始めた中2を対象としたコミュニケーションスキルアップのための取り組みも継続していきます。さらに、社会科主催で過去に何度か実施したことのある南山大学人類学博物館との連携によるワークショップについても、再度検討していきます。その他にも教育実習生、インターンシップ研修生としての南山大学の学生の受け入れや、本校教員が南山大学で教員免許状更新講習に参加するなど、大学との協力関係を継続していきます。

南山大学附属小学校とは、小中高協議会や同引継ぎ分科会等のみならず、双方の教員が交流・意見交換できる機会を設けていきます。

### 3. 社会貢献

#### (1) 地域清掃

近隣住民の方への感謝の気持ちも込めて、学校周辺の地域清掃を含む「全校一斉大掃除」を年に2回実施します。

#### (2) 募金活動

宗教活動委員会の呼びかけによる、クリスマス献金(教会を通じた世界児童福祉・国際協力援助・国内生活困窮者援助等のための献金)、および生徒自治会の呼びかけによる、学校祭収益金(バザー等の実施)の寄附(社会福祉活動・国際医療活動・私学奨学金等)の、寄附活動を続けていきます。

東日本大震災直後に始まった、教員・生徒有志が参加しての「被災地支援チャリティーコンサート」についても引き続き開催し、募金活動やチャリティーに関連した物品の販売なども行っていきます。こうした活動を通じて、他者の痛みや苦しみ、悲しみに寄り添う姿勢を育んでいきます。

#### (3) ボランティア活動

器楽部による医療施設などでのクリスマスコンサート、小百合会(主にボランティア活動を行う部)による特別養護老人ホームでの交流、催事等のお手伝い、希望者による就労継続支援事業所でのお手伝い等を計画しています。こうした部活動の活動のみならず、キリスト教精神を理解し実践するため種々のボランティア活動への参加を奨励しています。

#### (4) 地域貢献

ナゴヤドーム・南山大学附属小学校グラウンド等で行われている日本サッカー協会主催ユニクロ共催のJFA ユニクロサッカーキッズ企画(愛知県内児童対象)に、サッカー部の生徒がボランティアで指導に参加しています。

### 4. その他

#### (1) 危機管理体制の確立

守衛室常駐体制を維持し、教員による授業中・放課後の校舎内巡回を継続していきます。また、不審者侵入時の緊急対応訓練を年1回、火災・地震対策のための避難訓練も年2回継続して実施します。2019年度の内部監査で指摘のあった大災害発生後の事業継続計画(BCP)についても策定を進めます。

危機管理委員会、災害対策本部、生活指導部、校内サポート委員会、いじめ対策委員会等と、外部諸機関(警察・消防署・児童相談所・医療機関)の連携を、より一層強化していきます。愛知県警や臨床心理士会に協力を依頼しての、中2対象の痴漢対策等の「防犯教室」も継続していきます。

緊急連絡等の体制については、メール配信を軸にしています。より早くて確かな内容で生徒・保護者に伝えるため、学校(送信者)の携帯端末やパソコンから、容易に発信できるシステムを維持していきます。生徒・保護者の個人情報(メールアドレスのみ)で、委託業者のサーバで厳重管理されています。全校一斉配信、学年やクラス、部活動ごとの配信のほか、校外行事等についても対応できるよう、きめ細かい多系統の配信にしています。また、学校からの一方向の連絡のみでなく、生徒や保護者からも応答が可能になるよう双方向配信システムも採り入れています。

沖縄研修旅行・長崎研修旅行・海外研修旅行については、緊急事態発生時の対応マニュアルを整備して迅速な対応ができるようにしています。

#### (2) 広報活動の充実

年2回の学校説明会の実施、年間30回以上の外部説明会・個別相談会への参加を継続していきます。部活動体験会も実施し、受験生のニーズに応じていきます。またWebページやフェイスブックのより一層の充実を図り、在校生、卒業生、家庭や地域などへ広く情報発信し、女子部への理解を深めてもらうよう努めます。

以上

## 2020年度南山国際高等学校・中学校事業計画

### I. 2020年度事業計画の概要

2020年度の南山国際高等学校・中学校の在籍生徒は、高等学校だけとなりますが、国際部以来の伝統と特色を守りながら、各学年での編入生の受入れを行い、帰国生受入れ校としての社会的役割を果たしていきます。理事会が約束した「最後の一人の生徒まで、入ってよかったと思える学校」を、学園・学校が一体となって実現してまいります。

2020年度の主な新規事業は次のとおりです。

- ・学園共通の校務支援システムの運用、閉校後の書類発行システムを本格的に稼働します。
- ・「閉校」にともなう諸課題に、スムーズに対応できるよう校務組織の再編成を行います。

2020年度の主な継続事業は次のとおりです。

- ・閉校までの期間および閉校後の課題について、学園や他単位校と連携して対応していきます。
- ・『記念誌』の編纂を行います。
- ・帰国生の受け入れを行います。
- ・英語教育、ICT教育、個別指導を柱に、教育プログラムを進めます。
- ・安全で安心できる学校環境を整備していきます。
- ・PTA、卒業生、同窓会、他の単位校等との連携を強めていきます。

### II. 新規事業

#### 1. 学校全体

##### (1) 学園共通の校務支援システムの運用・閉校後の書類発行システムの構築作業

学園共通統合型校務支援システムを本格稼働し、成績処理、情報管理の徹底、業務の効率化、教育活動への活用を図ります。合わせて閉校後の証明書等の保存や発行システムの構築に取り組みます。

##### (2) 校務組織の再編

閉校までの3年間に行うべき業務と課題を、効率的かつ柔軟に検討・調整・実施していけるよう総合企画委員会、情報セキュリティ委員会等を新設・再編し、コンパクトで機動性の高い校務組織とします。

### III. 継続事業

#### 1. 学校全体

##### (1) 生徒募集・編入の実施

2020年度は、高等学校の各学年3クラス、計9クラスとします。海外子女教育振興財団や各企業の担当者等と連携し、Web ページや刊行物、学校説明会、日常的な編入相談等を通じてきめの細かい募集活動を行います。編入審査を年4回実施し、帰国生徒受入れ校としての社会的責任を担っていきます。

##### (2) 安全で安心できる学校の実現

行政・関係機関および学園危機管理委員会と連携しながら、校内校外を含め緊急時の対応マニュアルの見直し、豪雨、南海トラフ大地震、Jアラート、熱中症、インフルエンザ等への対応を継続的に行っています。各家庭と情報共有をさらに強化し、施設・設備のハード面の点検、災害時の初期対応訓練、緊急時の携帯用品の配備を行います。

また、キリスト教精神に基づく「いじめ防止対策基本方針」を遵守し、毎学期に実施する全校生徒アンケートも活用し、「いじめ」があった場合、迅速な対応をするともに、総合的な視点で「いじめ」を

生まない学校をめざします。世界各地から帰国した生徒一人ひとりにとって、安心できる「母校」となり、不安や危険を感じた場合、生徒や保護者がすぐに相談できるような信頼関係を育てていく不断の努力をしていきます。SNSの普及などの生徒を取り巻く環境に対応し、小規模校のメリットを活かし、専門機関とも連携して啓発活動や研修を行っていきます。当然のことながら教職員による体罰は厳しく禁じます。

### (3) 保健室業務・スクールカウンセリングの充実

養護教諭に加え、業務委託の看護師を保健室に配置し、生徒の傷病や精神的な悩み等に対応できるようにしています。週1日、スクールカウンセラー(臨床心理士)によるカウンセリングルームを開設し、生徒だけでなく子育てに悩む保護者や教員からの相談に対応します。

### (4) 教育全般の自己点検

全学年保護者を対象にアンケートを実施し、PTAの協力を得て学校関係者評価を行い、本校「ブリテン」で公開します。日常的に保護者会、PTA活動等を通して寄せられる要望等も含め、自己点検・評価委員会等の各校務組織で分析・検討し、学校運営に反映させていきます。

### (5) 南山学園内連携事業の推進

学園内の単位校と連携を進め、南山学園だからこそできる教育を実現します。南山大学各学部と「指定校推薦」「外国高等学校卒業生等入学審査」等を通して高大連携を進めます。①南山大学外国語教育センターでの英語授業、②大学教員による出張授業・進路学習(総合学習)、③南山学園内オープンキャンパス参加、④教職員研修の講師派遣、⑤本校PTAの南山大学見学説明会などを予定しています。

### (6) PTA活動との連携

PTA予算からの「部活生徒会活動助成金」、「教育助成金」、「図書費」、「国際交流(留学生受け入れ)」等への助成、学校祭など各種行事参加等、会員数が減少する中で、今まで以上に学校を支える重要なパートナーとして活動をしていただいています。PTA主催の「総合学習(総合探求)」授業として実施している芸術鑑賞会は、前年度と同様に「劇団四季劇場」で実施し、質の高い芸術・文化に直接触れる機会としていきます。「南山国際ブリテン」と「PTAだより」も合同で編集しています。PTA有志による合唱グループ(南山国際ハーモニー)も学校行事等に積極的に参加していただいています。

### (7) 生徒表彰「校長賞」の実施

生徒が努力した成果に対して榮譽を称え、各学年から選ばれた生徒1名に「校長賞」を授与します。

### (8) 『記念誌』の編纂

2022年中の刊行をめざし、旧国際部もふくむ国際校『記念誌』編纂作業を行っていません。

## 2. 教育・研究

### (1) 教育環境の改善

新しい教育課程への移行が完了します。南山学園の国際的な教育の一端を担い帰国生徒教育の質の向上を図る教育を継続していきます。英語以外の教科においても、小規模校のメリットを活かし、個別指導を充実させ、帰国生徒の特性をより伸ばさせていくための教育を日常的に行っていきます。

### (2) 宗教教育

カトリックのミッションスクールとして、キリスト教精神の涵養を図ります。全学年で宗教・キリスト教思想の授業を開講し、諸外国語による朝の祈り、校内ミサ、南山教会でのクリスマスミサ(2学期終業式も兼ねる)を実施しています。総合学習として、高校1年生は多治見修道院を訪問します。

### (3) 語学教育

「英語を学ぶ」だけでなく「英語で学び、表現する」のこのことのできる高いレベルの語学力を、すべての生徒が修得できることをめざし、次のような独自の授業プログラム実施とともに、英語検定、TOEFL等の資格取得を積極的に呼びかけています。具体的には、①習熟度別授業の展開(全学年)、②南山大学外

国語教育センターでの英語の授業受講（高校3年生）、③リベラルアーツ、イマージョン授業、④TOEFL-ITP(高校2年生)、⑤ワールドプラザ(全学年)、⑥日本語弁論・英語スピーチ大会(全学年)等を実施します。

#### (4) ICT 教育・情報リテラシー

PCを視聴覚教室およびメディアセンターに整備し、授業だけでなく昼休みや授業後の時間に生徒がインターネットを自由に活用します。PTAの支援により購入したChromebook(60台)やプロジェクターを、さまざまな授業や諸活動において、積極的に活用します。また高大連携の一助として、個人情報保護に配慮しながらe-ポートフォリオを活用し、アクティブラーニングを実現していきます。同時に、生活指導や技術家庭の授業を中心に、総合的な情報リテラシーの涵養を進めます。

#### (5) 夏期集中講座（サマースタディ）

夏期休業期間を利用し、各教科の補習・補充授業、英語検定試験対策、小論文・進路指導、入門講座や体験授業等を「サマースタディ」の名称で開講しています。

#### (6) 留学・国際交流

国際交流委員会を中心に留学プログラム等を企画・実施していきます。短期留学制度では、アメリカノースカロライナ州ホープウェル高校にホームステイし、授業に参加するプログラムを準備しています。また豊田市の国際化推進事業であるダービーシャー高校生派遣プログラムに参加します。個別の留学も、その成果が活かされるよう単位認定などの制度を整備し、国際性の涵養を図ります。

#### (7) 教員免許更新講習の受講支援

教員免許更新の対象となった教員に対し、「南山学園教員免許更新の際の費用負担に関するガイドライン」に基づく支援を行います。

### 3. 施設・設備

#### (1) 教室設備等

修繕の必要性が生じている箇所を適時、教育環境や安全性に配慮して補修を実施していきます。学校規模縮小にともない使用しない教室・施設・設備の有効活用を進めます。耐震設計がされている建築構造部だけでなく、非構造部材の安全性も引き続き点検し、必要な修繕を実施していきます。

#### (2) エネルギー管理委員会による省エネの検討、実施

南山学園環境宣言を踏まえ、職員室電灯のLED化や遮光シートなどによる電気使用量の削減をめざし、全校で取り組むとともに、夏期の熱中症・食中毒対策としてエアコンを適切に使用します。

#### (3) スクールバス・カフェテリア

通学バス交友会役員会で策定した最終年度までの運行計画に基づき、これまで以上に安全で快適な運行を行います。カフェテリア営業は2019年度末で終了しましたが、2020年度は交友会からの寄附を活用した冷凍食品のセルフサービス、販売車等により、昼食が取れるようサポートしていきます。2021年度以降は、利用人数の動向を見ながら対応を検討します。

### 4. 社会貢献

#### (1) 学校施設の社会的利用

施設の貸出等を実施し、①近隣の豊田市民（広域避難場所：体育館、グラウンド）、②豊田市ジュニアオーケストラ（練習場所：講堂）など、地域のニーズに応じていきます。

#### (2) 地域交流

地域の住民や近隣諸施設と交流を通し、本校や学園の社会的役割の認識を高めていきます。具体的には、学校祭行事への招待・接待や、文化系部活動生徒の訪問活動等を通し、地域住民、身体障がい者入所施設「とよた光の家」の入所者、その他近隣の保育園、小中学校、福祉施設、交流館の方々との交流

を実践します。

### **(3) 同窓会活動（南山常盤会およびアルマ・マール）**

南山高中校同窓会「南山常盤会」、その下で活動する本校母校支援組織である「アルマ・マール」と協同し、生徒、卒業生、PTAに働きかけ、閉校後も視野に入れた教育活動支援の輪を広げていきます。学校祭にも、多くの卒業生が積極的に企画に参加していただいています。

以 上



## 2020年度聖霊高等学校・中学校事業計画

### I. 2020年度事業計画の概要

1949年に名古屋市中区三の丸で誕生した本校は、1970年に瀬戸市の現在の校地へ移転しました。その50年後となる2020年度に瀬戸キャンパス内に新校舎が完成し、二度目の移転を経て新たな出発を迎えます。南山学園の教育方針と本校創立時の建学の精神を中心に据え、多くの人々によって育まれた本校の伝統的な教育を継承しながら、未来の聖霊生のために新しい時代に輝く学校を目指す初年度とします。

2020年度の主な新規事業は次のとおりです。

- ・教職員用タブレット端末を整備し、保護者からの欠席連絡システムの円滑な運用を開始します。
- ・新キャンパスでのICT教育環境整備計画を開始し、今後の活用についても検討します。
- ・50年間慣れ親しんだ旧校舎の解体工事を、教育活動への影響に注意しながら進めます。
- ・新キャンパスにおける新しい施設設備の確認を進め、さらに今後必要となる機器整備を検討します。
- ・新しい教育課程を完成させ、各教科の専任教員数を点検し今後の教員採用の計画を検討します。

2020年度の主な継続事業は次のとおりです。

- ・学園統一の校務システムの円滑な稼働を目指し、セキュリティ上のルールや使用法について教職員全員で共有し、校務の効率化を図ります。
- ・2021年度聖霊中学校の入試について、入試日程や入試課題等を総合的に見直します。
- ・新しい学習指導要領に基づき、中学・高校の教育課程の改訂案を完成させます。
- ・生徒利用の学園バス、本校伝統行事である「Eve, My 青春!」、海外研修など本校の生命線とも言える数々の事業について、更なる改善を検討します。
- ・新キャンパスの構造や校舎管理を前提に、本校教職員の働き方改革について検討します。
- ・完成した新キャンパスを最大限活用し、教育で「選ばれる学校」となるよう広報活動を強化します。

### II. 新規事業

#### 1. 学校全体

##### (1) 新キャンパスでの新しい教育の構築と新キャンパスの教育的活用 ★

新キャンパスの完成を受けて、文化祭・体育祭・式典などの学校行事、オープンキャンパスなど外来者の来校を伴う企画とともに日常の学習活動や課外活動における施設設備使用について、様々な視点から実施場所、実施要項などを点検し、年間を通して教育上有効な活用方法を工夫します。

- ・本校最大の行事である秋の文化祭について、教室の活用方法、体育館舞台の関連機器整備、長年継続されてきた父母の会による昼食の提供、バザーの会場等々、これまでの企画内容の継続の可否、場所や規模、今後の文化祭のあり方について検討します。
- ・部活動ごとの活動場所、更衣室、備品収納スペースなど、これまでの計画を踏まえて、すべての部、同好会についての円滑な活動を支援しながら、授業後の委員会活動、リーダー活動などとの棲み分けなどについて、生徒会指導部を中心として検討します。
- ・全校で行う学校行事、体育授業やスポーツ行事、学年単位で実施する朝礼や集会など、必要となる音響、映像設備品の最適配置と、行事の実施場所や優先順位などを確定させます。

##### (2) 教育課程の改訂後の教員構成についての検討 ★

本校の新しい教育課程を完成させ、教科ごとの授業数や教員数を点検します。今後の退職者や学園内他単位からの教員の移籍等による教員の年齢構成の変化に十分に配慮して今後の人事計画を検討します。

## 2. 教育・研究

### (1) ICT 教育機器の運用と教育活動での活用の研究 ★

映像配信システム、インタラクティブホワイトボードなどの環境整備、さらには教職員へのタブレット配備など、ICT 教育機器運用を開始しながら、学習指導における効果的な活用や校務における運用等について更なる研究開発を進めます。また、新キャンパス完成後の次期 ICT 教育環境の整備についても検討を開始します。また、2019 年度に整備した全教室映像配信システムについてはモデル授業や各種伝達事項の配信等により、授業研究や学習効果だけでなく、生徒・保護者・教職員の間で迅速に情報共有していくため、更に有効な活用方法を検討して行きます。

## 3. 施設・設備

### (1) 既存施設設備整備の検討 ★

新キャンパスを計画通りに運用できているかを点検し、より安心・安全な学校生活と魅力あるキャンパスづくりを進めるとともに、旧 M 棟体育館や旧中学・高校グラウンドなど、補修や改修の必要性を見極めて整備計画を検討します。

### (2) 欠席連絡システムの運用 ★

保護者からの欠席連絡について、電話以外の連絡手段によるシステムを導入します。システムの運用にあたり、情報セキュリティポリシーに基づく使用規程や運用マニュアルを整備し、リスクに備えた安全な運用を行います。

### (3) 旧校舎の解体 ★

50 年の長きにわたって利用してきた旧校舎の解体について、新年度からの教育活動に支障が出ないよう、安全と静穏な学習環境に十分留意しながら作業を進めます。

## 4. その他

### (1) Web ページリニューアルの検討 ★

本校の Web ページについて、新キャンパスの新しいイメージを発信するため、スマートフォンへの対応も意識した新しいデザインの検討を開始します。

## Ⅲ. 継続事業

### 1. 学校全体

#### (1) キリスト教に基づく全人教育の継承と宗教教育の確認

宗教の授業、学年ごとに実施される朝礼、中学 1 年生の修養会から高校 3 年生の静修の日そして卒業式へと中高一貫で進められる宗教行事と、生徒の実態や時代にふさわしい改善を常に意識しながら、本校の校風にふさわしい宗教教育の内容を確立します。そして、教員一人ひとりのことば一言にさえも本校の教育の精神が宿るように、全教職員で聖霊教育の基本精神を共有します。

#### (2) 学園通学バスの財政改善 ★

南山学園理事会の助言を仰ぎながら、父母の会や聖友会会員との意見交流を進め、2020 年度上半期を目途に学園通学バスの財政改善についての中長期的計画を立案します。

#### (3) 「EVE, My 青春！」の継続実施と将来設計の検討 ★

この行事は、本校の伝統行事として今年度で 38 回目を迎え、多くの来場者に温かく迎えられるました。2020 年度は、開催場所を名古屋駅前に移しますが、これまでどおり十分に準備し、成功に向けて努力します。また、名古屋市の久屋大通公園の完成状況を確認しながら、2021 年度以降の将来的な実施場所やあり方を継続して検討します。

#### **(4) 校務組織改編についての検討 ★**

役職や部の配置および人数等、校務分掌全体の組織改編について検討します。各部の役割を見直し、併せて勤務時間内での会議のあり方や、新キャンパスでの退勤時刻や校舎管理方法なども併せて、働き方改革の視点で総点検を進めます。また、校舎建築などの役割を担ってきた S.F.E.C. 委員会に代わって新たな委員会組織を立ち上げます。

#### **(5) 教職員必携（保存版）の改訂**

2013 年度に完成させた教職員必携（保存版）について、包含する様々な規定・内規の変更に伴い全面的な改訂作業を再開します。

#### **(6) 2021 年度入試の総合的な見直し ★**

学則定員 200 名の確保を目指して進めてきた中学校専願入試および学科試験選考入試について、2020 年度の入試結果を踏まえて 2021 年度入試に向けた見直しを行い、入試日程、入試広報の内容等の情報発信を速やかに行います。また高等学校入試についても、近年の志願者動向を見極めたうえで、推薦入試、一般入試を見直します。

#### **(7) 学校財政の安定化 ★**

学納金改定の中長期的な計画、経常費補助金の獲得、寄附金募集の継続等、財政面において学園全体の課題である各学校での収支均衡を目標として収入確保に向けて努めるとともに、本校の将来を見据えた長期的な目標に向けて、主体的な目線で中長期および単年度の事業計画立案を行っていきます。とくに広大な新キャンパスのメンテナンスコストについては、予算執行段階においても精査しつつ、支出の抑制に努めることにより学校財政の安定化を図ります。

## **2. 教育・研究**

#### **(1) 大学入学共通テストへの対応 ★**

初年度を迎える大学入学共通テストに対して、前年までの動向を踏まえつつ、模擬試験受験を積極的に勧めながら、大学ごとの入試情報や指導方針などを教員間で共有し、一丸となって生徒の指導にあたります。

#### **(2) 本校における中学・高校の教育課程の改訂 ★**

1 日の始まりの時鈴から新キャンパスでの学校生活リズムを確立し、中学・高校それぞれの教育課程を改訂します。また、高校の教育課程における選択講座や総合的な探究学習のあり方について校内での研究を進め、中学生徒募集から高校卒業後の進路指導までの六年一貫の指導の過程を検討します。

#### **(3) オーストラリア海外研修およびアイルランド語学研修の見直し ★**

オーストラリア研修ではメルボルンへの直行便の利用を前提に、生徒数、引率教員数、現地校滞在期間、観光地などについてさらに検討します。アイルランド語学研修についてもこれまでの参加生徒や引率教員の評価に基づいて、さらに充実した研修となるよう改善を図ります。

#### **(4) 南山大学・南山大学附属小学校・学園内中学・高校との連携 ★**

南山大学附属小学校から本校へ、さらに本校から南山大学への学園内一貫教育の流れを積極的に紹介し、部活動、文化活動での生徒児童間の交流や提携のみならず、教科指導などでの教職員間の人的交流などを進めます。

#### **(5) 職業体験やキャリア指導、進路指導の充実 ★**

中学 3 年生で実施する職業体験およびハローワーク講座、高校生の活動としての校外事業所でのインターンシップなど、それぞれの学年にふさわしい職業観を育成することを目標に、活動を継続します。また新キャンパスでの進路指導室、進路資料室の生徒利用に対応するため、内容を充実させます。

### 3. 施設・設備

#### (1) 学園共通統合型校務システムの円滑な稼働

学校全体の情報セキュリティポリシーに基づく教職員の個人レベルでの作業に関する利用規程やマニュアル等を教職員全体で共有し、学園共通統合型校務システムの導入初年度からの円滑な稼働と効果的な運用を進めます。

#### (2) 新キャンパスの保守、環境整備 ★

新キャンパスにおける施設設備の保守管理・定期点検等に必要となる経費を見極めながら、年間での保守・環境整備計画を立案します。その際、校内美化、キャンパス内植栽整備、日常的な生徒・教職員の動線などには、生徒の意見を反映させながら新キャンパスでのより良い教育環境整備を進めます。また、教育職員の勤怠管理のあり方について検討し、必要な機器整備を進めます。

#### (3) ICT 教育機器ならびに教職員利用 PC の更新 ★

2つのコンピュータ教室に配備されているPCを86台更新し、併せて指導用のシステムも更新します。また、Windows 7のサポート終了に対応するため、教員用として各教科各部署に配備されているPCを28台更新し、管理職用のPCおよび周辺機器を新たに配備します。

#### (4) 図書館移転後の蔵書収納および蔵書管理

新キャンパスへの移転を順調に進めておりますが、移転直後の4月当初から開館することは難しいため、蔵書収納、蔵書管理などの作業を迅速に進め、早い時期での新図書館開館を目指します。

#### (5) 旧修道院の改修についての検討 ★

新キャンパスと旧修道院は接続で利便性が高まるものの、補修や維持管理経費の必要性も無視できません。聖堂の利用を中心とした今後の活用方法や、補修・維持管理について検討します。

### 4. 社会貢献

#### (1) 募金活動 ★

聖霊降臨祭、クリスマス聖式などの宗教行事において、全校生徒による献金という形態で、聖霊会の関係する様々な事業所への支援を続けます。2019年度のオーストラリアでの大火災など、国外国内の被災地域に向けてDACなどの活動、学年単位や生徒会としての募金活動を積極的に推進します。

#### (2) ボランティア活動 ★

夏季休暇中のボランティア活動だけにとどまらず、学校として継続的な支援活動を模索します。

#### (3) 地域との連携 ★

地元幡山地区および山口地区の自治組織や瀬戸市観光協会との連携のほか、中学3年生の職業体験などにおいても瀬戸市を中心とした事業所に協力をお願いします。また、創立記念式典での伝統行事「花いっぱい運動」では、全校生から集められた花束を瀬戸市長をはじめ地域の方々や、様々な施設に感謝の言葉とともに届けます。

以上

# 2020年度聖園女学院高等学校・中学校事業計画

## I. 2020年度事業計画の概要

2019年度から、教育全体と組織を見直す検討が始まりました。将来構想委員会に加え戦略的教育改革委員会を立ち上げ、教育の質を高め、生徒に満足のいく進路を後押しし、受験生の確保に努めます。「一人の存在は必ず一つの貴い使命（ミッション）をもっている」というライネルス師の言葉を継続してアピールし、ミッション系女子校の良さをさらに広めていきます。

2020年度の主な新規事業は次のとおりです。

- ・ 神奈川県学習センターの開始に伴い、その情報収集と今後の利用可能性を検討します。
- ・ スタンフォード大学、シリコンバレーでのSTEAM教育をテーマとした研修への参加を促します。
- ・ UPAS (University Pathway Admission Service) 加盟校として海外大学への進学を支援します。
- ・ 高校棟トイレの改修および高校各教室へのプロジェクター設置による設備の充実を行います。
- ・ 働き方改革への取り組みとして、勤怠管理システムを導入します。

2020年度の主な継続事業は次のとおりです。

- ・ 放課後の学習支援をより効果的に活用し、補習・講習・自習のさらなる充実を図ります。
- ・ 年5回のミサ、クリスマス行事、ロザリオの祈り、中高練成会など伝統の行事を受け継いでいきます。
- ・ 英語とその背景にある文化を、国内外での体験を通して学ぶ機会をさらに充実させます。
- ・ ITを活用した授業を、教科を越えて参観し学び合い、生徒指導に活かします。
- ・ 社会福祉施設でのボランティア、募金活動などを通して、社会貢献ができることへの感謝の気持ちを育てます。

## II. 新規事業

### 1. 学校全体

#### (1) 職員勤務体系の整備

働き方改革への取り組みとして、教育職員の勤務時間を客観的に管理するための仕組みを導入し、始業・終業と出勤時刻との乖離を把握し、教育職員の健康管理を図ります。

### 2. 教育・研究

#### (1) 国際教育の充実★

UPAS (University Pathway Admission Service) 加盟校として、推薦入試制度を利用した海外大学進学支援を行います。進学に必要な奨学金制度についての説明会も実施します。また、在学生にはスタンフォード大学およびシリコンバレーでSTEAM教育を体験できる海外研修プログラムを紹介し、参加を促します。

### 3. 施設・設備

#### (1) 高校棟トイレ改修

2019年度に中学棟のトイレを改修したのに引き続き、2020年度に高校棟のトイレを改修します。中学棟のトイレ改修は、衛生的で快適な環境を生徒に提供するとともに、来学者の印象をよくし、学校のイメージアップにもつなげることができました。今回も同様の目的で高校棟のトイレを改修することとしました。

## **(2) 高校棟普通教室プロジェクター設置★**

生徒に一人一台の iPad を貸与し、生徒自らが学びの成果を発信する機会を設けています。また、自学自習を支援するツールを入れ、授業の予習・復習に取り組んだり、小グループ（6人程度）で、調査、研究、発表を行ったりしていますが、プロジェクターの導入によって、iPad の情報を黒板に投影できるようになることで、iPad の活用領域が一段と広がります。

## **4. 社会貢献**

### **(1) ボランティア活動★**

長期休暇中や自宅学習日および土日祝日などを通じて、生徒が主体的にボランティア活動に参加し、取り組めるようなサポート体制を、社会福祉法人藤沢育成会との協力体制の下に作っていきます。例えば、毎年実施されているチャリティーコンサートのサポートや、廃油石けん作りやエコたわし作りに参加することで、生徒が施設利用者の方々と触れあいながら SDGs について学ぶ機会を提供します。

## **5. その他**

### **(1) 試験採点システム導入準備**

試験採点の効率化および試験結果の有効活用のため、いくつかのシステムを比較検討し、導入に向け準備をします。

### **(2) 学習センター利用**

登校困難な生徒への支援を目的とした神奈川県学習センターの開始に伴い、その情報収集と今後の利用可能性を検討します。

### **(3) 中学入試期間中の緊急時対応体制の整備**

地震、大雪などによる試験開始日時の延期等を受験生および受験生保護者に迅速で分かりやすく周知する方法を整えます。また、入試実施中の緊急事態に備え、各部署で対応方法を検討し、一元化します。

### **(4) 他校との交流**

南山学園単位校および県内カトリック校との交流を活発にし、校内の活性化と広報活動へつなげていきます。

### **(5) 寄附金募集★**

聖園女学院高等学校・中学校での教育の充実および ICT 環境の整備等を目的とし、法人・企業・個人から寄附を募ります。

## **Ⅲ. 継続事業**

### **1. 学校全体**

#### **(1) 宗教性の涵養**

年5回のミサ、講堂朝礼での祈りと聖歌、クリスマススタブロ、クリスマスキャロル、ロザリオの祈り、中高錬成会など、聖園で伝統の宗教行事を通して、生徒の宗教性を涵養します。

#### **(2) 国際性の涵養**

海外研修（ニュージーランド中・長期留学・カナダ短期留学）、Misono English Academy、Advanced Class of English、海外からの留学生受け入れなどを通して、生徒の国際性を涵養します。

#### **(3) 留学支援のための奨学金制度**

2019年度開始のニュージーランド、Sacred Heart College, Napier での1年留学および2014年度から実施しているニュージーランドでの中期留学に、引き続き給付型奨学金を支給します。生徒・保護者

への負担の軽減と、参加意欲の促進、また中学入試の広報活動へのPRともなっています。

#### (4) 総合力育成

すべての教育活動を通じて、「いつでも、どこでも、誰とでも、チームを組んで、課題を発見し解決する力」を育みます。

#### (5) ICT 活用

各教科で ICT を活用した教科教育法を検討し、従来の授業展開に加え、iPad やプロジェクターなどを使った新しい学びの方法を更に推進します。

#### (6) 放課後学習支援★

自主的な学習習慣を定着させるために、放課後の学習支援を全学年で組織的に運営します。平日 18 時まで図書館を開放し、授業の予習復習、宿題を始め、検定試験、大学入試に備えた学習に取り組む環境を整えます。外部業者を利用した大学生によるメンター制度の導入と教科・クラス担当者による事前指導により、より効果的な活用を促します。今後、学習時間の延長、土曜日や長期休暇中の開講なども検討し、進学支援と学力向上を柱に一層発展させていきます。

## 2. 教育・研究

### (1) シラバス改良、評価方法研究、試験作成研究

2022 年度の高校学習指導要領改訂に向けて、新カリキュラムの作成と授業と評価のあり方を研究します。

### (2) 補習・講習・自習

長期休業中の補習・講習・自習について、これまでの反省点を活かすとともに、教科横断型など様々な形態の取り組みも積極的に取り入れられる環境を整えます。

### (3) 現地研修・校内研修

中学 3 年生全員が 2 泊 3 日で京都と奈良に出向き、日本の伝統文化への理解を深めるための研修を行います。高校 2 年生全員が 3 泊 4 日で長崎と平戸に出向き、「祈りと平和」について思いを深めるための研修を行います。中学 1 年生の祈りを中心とした校内研修、中学 2 年生の鎌倉研修、高校 1 年生の「愛といのち」の研修、さらに、中学 1 年生・2 年生の、「相互尊重とコミュニケーション能力の育成を目指すプロジェクトアドベンチャー研修」によって、心と体の体験学習の取り組みを継続します。

### (4) 聖園祭・球技大会

生徒会活動の一環として学校行事を継続します。球技大会委員会を中心に 2 日間、中・高別にクラス対抗で、球技大会を実施します。勝敗にとらわれず、クラス、学年の連帯感を強めることができます。また、聖園祭企画実行委員会を中心に、聖園祭を 2 日間実施します。委員会による企画・運営により、日ごろの成果を発表する機会を提供し、実践的な社会性を育む教育的効果を目指します。

### (5) 芸術鑑賞教室

生徒の情操発達に資する演目の選択とその円滑な実施に努めます。開催場所を見直し、市民会館から学校内に変更します。

## 3. 施設・設備

### (1) 省エネ活動・環境保全・美化活動

全校で取り組んでいる節電・節約を通じて、地球環境への負荷を意識し、自らの生活を顧みる取り組みを、継続して行います。また、聖園生全員で取り組んでいる清掃活動で、自ら進んで環境美化に努める意識を育みます。

## 4. 社会貢献

### (1) ボランティア

みこころ会と生徒会が中心となり、社会福祉施設でのボランティア活動、被災地支援のための募金活動（震災募金・歳末助け合い募金・共同募金）を継続して実施します。また高校1年生は、10月に奉仕活動の一環として、「赤い羽根共同募金（街頭）」活動に全員参加します。聖園祭での純益金を社会福祉活動、国際協力援助のために寄附します。

## 5. その他

### (1) Webによる出願

Webによる出願、入学金納入に関するシステムを継続します。現金取り扱いのリスクを低減すると共に、より多くの受験生確保に努めます。

### (2) 積極的な入試広報活動

校内の説明会・見学会・外部模試の実施、校外・海外の説明会等の参加、塾訪問、Webページの充実など情報発信をし、定員確保のために力を尽くします。2019年度に一新した「踏み出す人に」をイメージしたパンフレットを用いて、教育内容をより分かりやすく伝えます。

以 上



## 2020年度南山大学附属小学校事業計画

### I. 2020年度事業計画の概要

本校は、「校訓を体現する児童」「知的・精神的側面において高度に磨かれた児童」「真のリーダーシップを発揮する児童」「自らに与えられた使命を自覚する児童」の育成を目指しています。2020年度もこの目標に向け、全学年にわたり、家庭および地域との教育連携を得ながら、一人ひとりの児童を慈しみ深く、時に厳しく、育てます。具体的な手立てについては、2020年度は新しい教育課程に基づいて「真教育」をさらに発展させていきます。本校が南山学園共通の教育モットー「人間の尊厳のために」を実現するために存在していることを忘れず、児童がいっそう生き生きと学習に取り組み、学校生活を送ることが出来るようにします。

2020年度の新規事業は次のとおりです。

- ・総合的な学習「とびら」の時間を設けます。
- ・タブレット端末の活用を推進します。
- ・St. Brigid's Catholic Primary School との姉妹校提携を結びます。
- ・働き方改革を推進します。

2020年度の主な継続事業は次のとおりです。

- ・「合理的な配慮の提供」を実現する個別支援教育を構築します。
- ・「南山小学校ならではの学習」を展開します。
- ・学園内連携推進協議会のもと、大学・高校・中学との連携の強化を図ります。
- ・より一層本校の教育活動を知っていただくためのWeb ページのリニューアルを行います。

### II. 新規事業

#### 1. 学校全体

##### (1) 総合的な学習「とびら」の時間の設定

これまで国際理解を中心に進めてきた総合的な学習に加え、プログラミング教育や探究的な学習を盛り込んだ「とびら」の時間を設定し、子どもたちの主体的・対話的で深い学びを推進していきます。

##### (2) タブレット端末の活用推進

2014年から取り組んできた33台のiPadの利用実験をもとに、iPadを活用した学習を推進していきます。「タブレット端末の利用によって、写真や図形を自在に活用しながら課題をまとめることができる。」「お互いの意見を述べるだけでなく、タブレットで見せることによって議論も理解も深まる。」などのメリットを活かしていきます。

##### (3) St Brigid's Catholic Primary School との姉妹校提携に向けて

第6学年で実施している海外研修（シドニー）では、隔年でSt. Brigid's Catholic Primary School との交流を行っています。持続的に相互交流活動を実施していくことで一致しており、Our Lady of the Angels Primary School（2019年度姉妹校提携校）に引き続き、今夏、St. Brigid's Catholic Primary School とも姉妹校提携を結ぶ予定です。

##### (4) 働き方改革の推進

2019年1月29日の文部科学大臣メッセージにあるとおり、教員の働き方改革は喫緊の課題です。これまで行ってきた登校指導の見直しや、これまで以上の業務軽減、休憩室の拡充などに取り組んでいきます。勤務実態の把握のために、タイムレコーダーを導入します。年5日の有給休暇および時間年休についても学校として取得を促進します。

## Ⅲ. 継続事業

### 1. 学校全体

#### (1) 特別支援教育の連続講座

「かけがえのないあなたと私のために」の理念を実現するために、誰に対しても受容的である学校風土をつくることに努めています。2019年度は、特別支援教育への保護者の理解を深めるために、特別支援教育に造詣の深い講師を招いて、年9回の連続講座を行いました。2020年度も年9回の連続講座を行う予定です。

#### (2) 個別支援教育の構築

教育的な配慮が個別に必要な児童に対しては、家庭との連携を積極的に図り、継続的な面談による支援を行います。

2019年度に引き続き、定期的にスクールカウンセラーに来校をお願いし、児童の支援、必要に応じて個別支援について、より効果的な支援体制を構築します。

個別支援が必要な場合は、保護者との話し合いを通して、「合理的な配慮の提供」をしています。ICTも活用しながら、ますます「合理的な配慮の提供」を丁寧に実施し、個別支援交流会を継続していきます。

#### (3) 家庭との連携

2020年度は、保護者面談を3回から2回に減らすこととし、その分、年2回のクラス懇談会の時間を長くする予定です。毎日の保護者への連絡を丁寧にし、保護者との連携をさらに深め、児童の学校生活、家庭生活がともにより豊かなものとなることをめざします。学校の考えをよりよく理解していただくとともに、保護者の考えも理解できるようにします。

### 2. 教育・研究

#### (1) 学習指導

2018年度と2019年度は、研究テーマ「『あなたと私』をいかに学び合う授業の創造」のもと、「学び合い」を重点にした教科教育の研究成果を発信する発表会（「真教育」研究会）を開催しました。2020年度はそれによって明らかになった、児童一人ひとりが互いの良さ・持ち味を尊重しながら、学びを深めていく力と姿勢を育む学習指導のあり方を、日々の授業づくりで探究していきます。また、指導要領の改訂に対応した教科・道徳・特別活動・総合的な学習の時間のカリキュラムの改善・作成を行い、「真教育」の精神に根ざした「南山小学校ならではの学習」が展開できるようにしていきます。

#### (2) 英語教育

2019年度に、指導要領の改訂に対応するため、指導内容の適正化・系統化を図ったカリキュラムの改善・作成を行いました。2020年度は、その有効性と改善点を、授業実践を通して確かめ、指導方法の工夫・改善も重ねていきます。特に、英語教育の基盤にあるコミュニケーション能力の育成と実践の場で活用できる姿勢・能力の育成を一層重視した指導について、研究的な実践を積み重ねていきます。また、英語に日常的に触れられる環境づくりの重要性も確かめてきています。英語科教員との交流を図る活動を工夫し、一層多様に展開していきます。

#### (3) 海外研修旅行と学校間交流

国際的視野の育成および国際性涵養の一環としての研修旅行や、海外の学校との交流の実施を継続しています。2019年7月には、2017年度に交流した学校(Our Lady of the Angels Primary)を本校児童18名が訪れ、授業への参加、ホームステイ、現地の方との交流等を行いました。姉妹校提携の調印も行いました。2020年は、2018年度に交流した学校である St. Brigid's Catholic Primary School との交流を継続していく予定です。

2019年度には台湾聖心小学校から本校への訪問があり、行程を改善し、一層の協力関係を築くことができました。2020年度は、聖心小学校への訪問を行い、ホームステイも実施する予定です。姉妹校として、安定した協力関係を築いていきます。

#### **(4) 生活指導**

2020年度には、2019年度の生活指導の重点「ロッカーの整理整頓」の対応を継続するとともに、さらに新しい重点目標を掲げ、具体的に指導を続けていきます。

また、2019年度には「不登校予防のための体制」や「インフルエンザ等の感染症で学級閉鎖を行う時の対応」について具体的にまとめました。これにより、不登校児童の対応や学級閉鎖を行う動きが明確になりました。2020年度は、危機管理に係るマニュアルを整備し、不測の事態にもしっかりと対応ができるようにしていきます。

#### **(5) 中学接続に係る取り組み**

2019年度は日々の教育活動の中で、人間の尊厳の推進者として児童が成長できるよう教育活動を行いました。接続に関する検討会からの議事内容を受けて、本校で目指す子どもの姿を再度確認し、中学校進学にあたり、必要な学力・生活両面の資質についても話し合ってきました。また、児童への個別の声かけをきめ細かにして、児童自身の意識改善を手助けすると共に、家庭との協力体制をより強くするような指導に心掛けました。2020年度も中学接続について、2019年度に行った早い段階からのアプローチにより、児童自身の意識改革と家庭との協力体制の強化、および個別指導に更に力を入れ、よりきめ細かな対応ができるようにしていきます。

#### **(6) 大学・高校・中学との連携**

学園内連携推進協議会のもと、小中高協議会や小学校・大学連絡協議会で互いに共通理解を図っています。これまでの具体的な連携として、宿泊学習・校外学習での訪問、生徒クラブによる演奏披露、アフタースクールや入試での学生による業務補助などの開校以来継続して実施している事業がより安定的に行われています。児童が小学校を訪れてくれた南山大学留学生とふれあうことができたり、保護者向けの子育て支援も機能しています。

さらに多くの関係者が参画し、実施形態が多様化していくよう推進します。中学・高校教員との合同研修会についても検討していきます。

#### **(7) 児童の自治的活動**

委員会活動、クラブ活動、異学年交流に加え、「運動会」や「6年生を送る会」などでの活動が定着しています。南山っ子タイムに行う児童集会も、委員会ごとの特色を生かした活動が企画され、全校児童で楽しい時間を過ごすことができおり、代表委員会による「あいさつ運動」や環境委員会主催で全校一丸となって取り組んだ「ロッカー清掃月間」なども成果を上げています。2020年度は、これまでの活動に加え、代表委員会が中心となって創意工夫した活動を計画し、縦割り活動の充実にも取り組んでいきます。

#### **(8) 児童の安全の確保**

2019年度は、児童の登下校中の見守り活動について、保護者会わかみどりの方に今まで以上に組みんでいただき、児童の安全を図ることができました。2020年度は、さらにこの活動を全校保護者の見守りの充実へと広め、児童の安全をさらに強化する予定です。また、1年生が例年2学期に行っている「交通安全教室」の実施時期を見直し1学期に行うことで、すぐに児童の登下校に反映できるようにしました。色別下校班も見直しを行い、2020年度からは、班を増やしてよりきめ細やかな指導ができるような体制にします。

#### **(9) 教師力の向上**

「『あなたと私』をいかし学び合う授業の創造」という研究テーマを継続し、「学び合い」を重点とした研究的な実践を重ねてきました。2018年度は、開校以来初めて、本校の教科教育に関する考えや実践

を発信する研究発表会（「真教育」発表会）を、2019年度には第2回「真教育」発表会を開催しました。この発表会で公開する授業の指導案の作成・検討や、教科の研究を発信するための資料づくりを通して、教材解釈力や授業構想力を高めることができました。2020年度は、「真教育」研究会の成果と課題を踏まえて、教員一人ひとりの自発性・主体性を生かすことと、日々の授業を充実させることを重視した研究的な実践を積み上げ、授業力をさらに高めていきます。

全教科で、外部講師を招聘して指導をしていただく授業研究会を継続的に行ってきています。2019年度には、全校職員が授業を参観して行う全校授業研究会を、理科・図画工作・国語の3教科で行いました。外部の目から見た授業評価やアドバイスを受け、テーマの実現や本校の独自性につながる学習指導にしていくための示唆をいただきました。2020年度も、外部講師を招いた研修や授業研究を実施します。外部からの授業評価を受け止め、授業構想力や授業展開力、授業評価力を高めていきます。

### 3. 施設・設備

#### (1) 校内施設の改装

今後使う見込みのない外調機が設置されている場所を休憩室や倉庫に改装し、労働環境の改善を図ります。グループ学習室に壁や扉を設置し、一般教室と同じように温度管理された環境となるようにします。

### 4. その他

#### (1) 広報活動

2019年度は、2020年4月のWebのリニューアルに向けての準備を進めてきました。また、幼稚園・保育園対象の雑誌に学校紹介の記事を掲載したり、学校説明会の折り込み広告を出したりすることも継続して行いました。入試情報誌や新聞に加え、名古屋市の生活情報誌などにも媒体を広げ、積極的な広報を手がけると共に、年中幼児保護者対象の学校説明会や単位校合同のトワイライト説明会で、幅広い保護者層に働きかけました。

2020年度は、4月にWebをリニューアルします。リニューアルしたWebを活用して本校への関心をさらに広めると共に、より一層本校の教育活動を知っていただくために学校案内パンフレットや学校紹介動画を見直し、よりよい内容になるよう改訂していきます。2020年度も新規メディアの開拓をしながら、積極的な発信を心掛けます。

#### (2) 保護者へのカウンセリングの広報およびカウンセリング事業

2020年度も、教育相談担当者へカウンセリング予約ができる体制、南山大学保健室から助言を受けられる体制を継続します。さらに、南山大学人間関係研究センターと連携し、子育て支援講演会と子育て支援グループの会合を定期的実施します。継続している事業のため、保護者のカウンセリング予約に対する認知度も高く、利用者が増えてきています。

また、子育て支援講演会を開催し、子育て支援グループについても再募集します。カウンセリング活動についてもさらなる充実を図っていきます。

#### (3) 地域との連携

アフタースクールのリコーダー講座や箏講座、聖歌隊が地域の祭りで発表を行ったり、商店街の方に地域清掃に参加していただくなど、いりなか商店街や八事商店街との連携が定着しています。南山小見守り隊も地域の方の新規登録を継続して募集しています。3年生の社会科の取り組みの発展として、農協や総合商業施設でのPR活動も行うことができました。

加えて、生活科や社会科の学習なども地域の方とふれ合う活動を大切に、児童の地域への感謝の気持ちが高まることをめざします。地域社会の一員としての奉仕の心や地域を愛する心も育みます。このことが、児童の安全確保にもつながると考えます。地域の小学校とも連携し、地域社会の中で共に児童を育てていきます。

以上

## 2020年度聖園女学院附属聖園幼稚園事業計画

### I. 2020年度事業計画の概要

「新幼稚園教育要領」の改正で、『より良い学校教育を通してより良い社会を創る』を目標とする社会に開かれた教育課程とすることになりました。より良い社会を創るために、新たな課題に挑戦し、共同で解決していく力を身につけさせていきます。そのために自立心・道徳心・思考力を養い、言葉によって伝える力をつけるなどの園児個々の能力を高めていく環境作りを整備していきます。

また、学園共通の教育モットーである「人間の尊厳のために」を実現する取り組みを、引き続き横断的かつ縦断的に実現していきます。

なお、園児の確保のためには、預かり保育・プレ保育・満3歳児受け入れなどの見直しと、課外活動を含めた教育活動の再考をし、併せて適切な広報活動を行うことで対処していきます。

2020年度の主な新規事業は次のとおりです。

- ・園児の創造力や感性を育み、共同性を身につけさせることを目的に、2017年度より進めてきた園庭拡張整備の完了に伴い、さらにより良い活用方法を構築します。
- ・将来の多様化するグローバル社会に柔軟に対応できる素養を培うために、地域社会やカトリックの雰囲気を感じていく機会を作っていきます。
- ・危機管理体制整備のために、園児の送迎時に保護カードの携帯を実施します。
- ・自園の教育内容の発信と教職員採用のために、Webページの活用と広報ツールを工夫していきます。

2020年度の主な継続事業は次のとおりです。

- ・幼児教育の無償化対応や園児への教育環境作り、単位校との教育連携を継続して行います。
- ・保護者との協体制度をより一層深め、子育て支援の援助を継続していきます。
- ・クリスマス献金や老人ホーム慰問など、社会貢献や地域貢献を継続していきます。

### II. 新規事業

#### 1. 学校全体

##### (1) 危機管理体制の整備

毎日の園児の送迎を安全に確実にを行うために、各家庭に保護者の証である保護カードを配付し、送迎時には携帯してもらうことを実施します。

#### 2. 教育・研究

##### (1) 園庭活用

2018年度に購入した隣地を活用しての園庭整備工事が2020年3月に終了し、園児の創造力や感性を育み、共同性を身につけさせることを目的とした砂場や遊具が整備されることを機に、より良い活用方法を構築していきます。

##### (2) 絵本の充実

絵本を充実させ、貸し出しを行うことで園だけでなく家庭でも多くの作品に触れさせ、感性や思考力の基礎を培っていきます。

##### (3) 修道院への訪問

聖心の布教姉妹会修道院へ園外保育などで訪問します。「いつでも どこでも だれとでも」というカ

トリックの雰囲気を感じ、纏うことで、将来の多様化するグローバル社会に柔軟に対応できる素養を培っていきます。

### 3. 社会貢献

#### (1) 近隣の方々との交流

本園は住宅地に囲まれた立地です。地域の方々に、発表会やちびっ子祭りに足を運んでいただき、本園をより良く知っていただくと同時に、園児にも地域社会の中で支えてもらっていることを実感できる機会を作り、地域の中で発展できる園にしていきます。

### 4. その他

#### (1) 広報活動の充実

本園から発信できる Web ページの活用と広報ツールを工夫していきます。これにより、カトリックの幼稚園である教育の特徴を広く知ってもらい、入園を希望する家庭に教育方針を理解していただき、また優秀な教職員の採用に繋げていくための広報活動を行います。

## Ⅲ. 継続事業

### 1. 学校全体

#### (1) 教育プログラムの見直しの継続

本園の教育目標は、キリストの教えの世界観に基づき、学園共通の教育モットーである「人間の尊厳のために」を尊重し、幼児期に必要な心身の調和のとれた人間の育成を目指しています。新たな課題に挑戦し、幼児の幅広い能力を高めていく環境作りを継続していくと共に、幼児の体力増進に向けて一層の体育強化に取り組みます。また、国際性の涵養のため英語を他者理解のツールとして楽しく学べる環境作りを引き続き行うために教育プログラムの充実を図ります。また、学園内連携として、聖園女学院高等学校の夏休み講習の一環で行う預かり保育見学に協力したり、聖園マリア幼稚園との園児交流を引き続き行い、総合学園だからこそ出来る活動を一層深めていきます。

#### (2) 保護者との協力体制

社会情勢が混沌とした傾向にある現代だからこそ、聖園幼稚園の教育方針をクラス懇談会や個別面談などの機会を通してきめ細かく伝え、園と家庭の協力により「心の通い合うつながり」をもって、子どもより良い育ちを援助していく体制を続けていきます。

#### (3) 子育て支援に関する援助

保護者の要望により預かり保育・満3歳児受け入れを実施し子育て支援を行っています。預かり保育では、できる限り子どもとの関わりを優先して家庭教育の温かさを保ちながら、日本の行事も大切にしたカリキュラムに沿った活動を展開していきます。また、希望者へは給食弁当を提供していきます。

### 2. 施設・設備

#### (1) 施設補修

園舎が建築後30年を経過するため、計画的な建物関連の補修整備を実施し、園児の安全・安心を確保するため定期的に遊具の点検をしていきます。

### 3. 社会貢献

#### (1) プレ保育の実施

2019年10月より未就園児とその保護者対象にプレ保育を開設しました。保護者が子育ての悩みを保護者同士で分かち合い、園の教員に相談する場として、次年度の入園へとつなげていきます。

#### (2) クリスマス献金

クリスマスの意味と世界に困窮している子ども達がいることを学び、カリタスジャパンを通して毎日自分ができる献金により、世界の子どもの命が救われるという命の大切さを共有する教育を続けていきます。

#### (3) 勤労感謝

スクールバスの運転手や地元の警察官、地域のごみ収集車の職員の方々などへの感謝を、自分たちの作品を贈るという形で表しています。日常生活では多くの方々の陰の力で成り立っていることに気づき、感謝する気持ちを育む教育を続けていきます。

#### (4) 老人ホームへの参加

老人ホームへ慰問し、歌のプレゼントを行っています。他者の喜びが自分の喜びにつながる経験をしていくことによって、他者のために生きるという将来のキャリア教育につながっていくことが期待されます。

#### (5) エコキャップの回収

「世界の子どもにワクチンを」という願いのもと、家庭からの協力を得て使用した飲料水のキャップを回収して寄附を行っています。自分とは違う環境で生きている子どもたちが世界にいることを知り、自分に何ができるかを考えさせる教育を続けていきます。

以 上

# 2020年度聖園女学院附属聖園マリア幼稚園事業計画

## I. 2020年度事業計画の概要

子ども・子育て支援法の改正により2019年10月から幼児教育が無償化されたため、保護者は保育料の高低にかかわらず幼稚園・保育園選びが出来るようになりました。このため、本園の特色を最大限に生かすことで他園との差異化を図ることが重要となっていること、また他園との違いを知っていただくことが必要であると考えています。

本園の特色は、「おいのり・親切・がまん・ありがとう」を大切にしよう園児に伝えるとともに、心身のバランスのとれた成長を促すために園児一人ひとりを育てることを心掛けていきます。また学園共通のモットーである「人間の尊厳のために」を心にとめ、教職員一同、志を一つにして保育の質の向上を心掛け、園児と保護者の心に寄り添う保育を目指していきます。

2020年度の主な新規事業は次のとおりです。

- ・本園の教育内容を広く知っていただくためにWebページを開設します。
- ・ワイヤレスアンプを購入し、保育に活用することにより園児のリズム感を育てます。
- ・保育室床暖房の張り替えを行い、園児にとって快適な環境にします。
- ・屋外給水管更新工事を行い、園児が安心して生活できる環境の維持に努めます。

2020年度の主な継続事業は次のとおりです。

- ・広い運動場を園児が安全に伸び伸びと活動ができるように、雨風による劣化の補修を行います。
- ・子育て支援事業として未就園児対象「ひよこらんど」の充実を図り、園児募集に繋げていきます。
- ・敬老の日に合わせて年少児の修道院シニアホーム表敬訪問を継続します。
- ・預かり保育を充実するために、時間延長や園舎の空きスペースの活用および増築等、総合的な計画を検討します。
- ・満3歳児の受け入れを強化し、将来の園児確保に努めます。

## II. 新規事業

### 1. 教育・研究

#### (1) ワイヤレスアンプの購入

現在使用しているワイヤレスアンプの老朽化にともない、園児の動きに合わせてスピード調節可能な新しい機器を購入します。また、ワイヤレスのため、訪問先での使用も可能です。これにより、遊戯などで音楽を多用でき、これまで以上に園児のリズム感を育てます。

### 2. 施設・設備

#### (1) 床暖房部床張り替え工事およびガス給湯設備調査工事

床暖房を使用しても場所によって温度にむらがあり稼働しない保育室があり、また使用するにつれ床が盛り上がってくる保育室があります。以上のことから不具合の個所を特定し、むらが起きないように修繕工事、さらに床暖房に適した床素材に修復し張り替え工事を行います。

#### (2) 屋外給水管更新工事

園舎建て替え時に行わなかった屋外給水管の老朽化が進んだため、更新工事を実施します。



### 3. その他

#### (1) Web ページの開設

多くの保護者は幼稚園が独自で開設しているホームページを参考に幼稚園の情報を得ていることから、自園の教育理念や取り組み、園児の様子を配信していきます。広く知ってもらうために充実した内容を提供することで園児の獲得につながると考えます。

## Ⅲ. 継続事業

### 1. 施設・設備

#### (1) 運動場整地工事

2019年度は園舎の側溝を整備したことで園舎わきの水たまりは改善されました。しかし、大雨や積雪がある度、園庭に大きな水たまりができ、天候回復後も遊ぶことが困難な点については改善されていません。また、雨風により砂が流れたことで小石があらわになり、園児が転倒した際、大きな怪我に繋がる心配が生じているため、今後砂の整備および補充を行い、園児が安全に伸び伸びと戸外活動ができるよう様子を見ていきたいと思ひます。

### 2. 社会貢献

#### (1) 子ども子育て支援事業「ひよこらんど」の開催

未就園児対象「ひよこらんど」の2019年度参加者の過半数が2020年度に入園していることから、この事業の存在が園児獲得に大きく貢献していることがわかります。保育の様子を知ってもらえるよう園内を見学したり、在園児と一緒に園庭で遊ぶ等、未就園児の募集に役立てていきます。また、保育者に親近感を持ち気軽に相談できる場とするとともに、保護者同士が子育ての苦労や喜びを分かち合う場として集えるように計画し、充実を図ります。

#### (2) 修道院・シニアホーム表敬訪問

敬老の日に合わせて年少児、年長児が聖心の布教姉妹会修道院・シニアホームを訪問し、日頃お祈りして下さっているシスターと一緒に歌ったり、踊りを披露して感謝の気持ちを伝えます。年長者との触れ合いの中で労りの心や思いやりの心を育てていきます。

### 3. その他

#### (1) 預かり保育の充実

預かり保育の実施が、園児確保に大きな要因になっております。これまでの実績とこれからのニーズを踏まえながら、時間延長や園舎の空きスペースの活用、ならびに預かり保育専用の園舎増築の可能性について引き続き検討していきます。

#### (2) 満3歳児保育

2011年11月より満3歳児保育を始め、現状の在園児を鑑みながら「在園児の弟妹」という基準で変則的に受け入れてきましたが、少子化のあおりもあり、より多くの未就学児と早い段階でかわわりを持つことが将来の園児獲得に有効と考え、満3歳児の受け入れをより強化します。

以上